自民大勝の背景と有権者の受け止め方

～「参院選後の政治意識・2013」調査から～

世論調査部　河野　啓／小林利行

第23回参議院選挙では自民党が大勝し，非改選を含めて与党が過半数を確保した。この結果，衆参のねじれが3年ぶりに解消された。選挙の2か月後に実施した世論調査の結果から，自民大勝の背景などについて分析する。

▽安倍政権の経済政策について比例で自民党に投票した人の84％が『評価する』と答えるなど，自民党の勝利には経済対策への評価が大きく影響していた。▽今回初めて解禁されたインターネット選挙運動については，情報に触れなかったという人が半数以上いたうえ，触れた人の中でも投票でその情報を『参考にした』人は23％にとどまった。▽憲法の改正については「必要あり」が半数を超えているものの時系列では減少していて，96条と9条の改正についてはどちらも「必要あり」が3割弱にとどまっている。▽政党支持率は，自民党一党優位の状況にある。自民党以外の政党では『支持する』より『支持しない』が圧倒的に多い。▽自民党を『支持する』人は多いものの，その内訳は弱い支持がほとんどを占める。また，自民党で評価できる点については，時系列で「あてはまるものがない」が28％から32％に増えるなど，自民党への支持も安定しているわけではない。▽参院でも与党多数となり，一党優位がさらに顕著となったためか，政界再編について「望まない」が時系列で42％から33％へと大幅に減少し，政界再編への期待が増えてきている。

はじめに

2013年7月の第23回参議院選挙では，自民党が，2001年に現行の選挙制度となって以降，全政党で最多となる65議席を獲得して大勝した。公明党と合わせて与党が76議席となり，非改選を含めて過半数を確保した。この結果，衆参のねじれが3年ぶりに解消された。一方，民主党は結党以来最低となる17議席にとどまって大敗した。選挙区の投票率は，過去3番目に低い52.61％だった。

本稿では，参議院選挙のおよそ2か月後に実施した政治意識調査の結果をもとに，自民大勝の背景や今後の政党のあり方についての有権者の意識をみていく。

調査の概要は以下のとおりである。なお調査時期は，安倍政権の経済政策（アベノミクス）によって，円安・株高の傾向が続いて景気回復基調が定着しつつあった時期であり，9月8日（日本時間）には，東京が2020年のオリンピック・パラリンピックの開催都市に選ばれた。

調査時期：2013年9月7日（土）
～9月16日（月）
調査方法：配付回収法
調査対象：全国の有権者
調査相手：選挙人名簿から層化無作為
2段抽出，
3,600人（12人×300地点）
調査有効数（率）：2,627人（73.0％）

NHKでは，2009年の衆院選と2010年の参院選，それに2012年の衆院選の後にも同様の調査を行っており，比較可能な質問は適

宜活用して分析した。なお，単純集計結果とサンプル構成，それに過去の調査の概要および今回と共通の質問の結果を47～57ページに掲載している。

本稿では，▽なぜ自民党は大勝したのか，▽今回初めて解禁されたネット選挙運動はどう受け止められたのか，▽政党の評価はどう変わったのか，▽どのような政党のあり方が望まれているのか，といった内容について以下の章立てで報告する。

はじめに
1. 自民党に勝利をもたらしたもの
2. 憲法改正についての考え方
3. ネット選挙運動の受け止め方
4. 政党支持と衆参与党多数についての評価
5. 今後の政界について
おわりに
（はじめに～3を小林，4～おわりにを河野が担当）

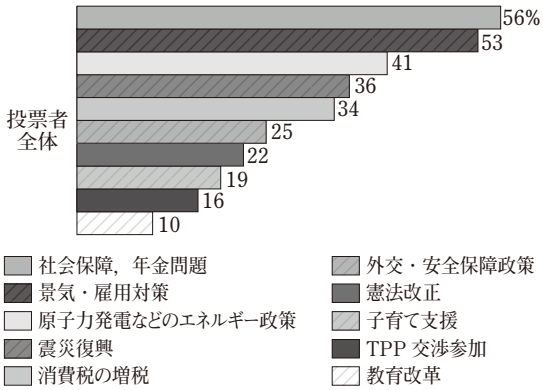
なお本稿では，比例投票政党別や支持政党別で分析しているが，それぞれ回答者数が100人未満の政党については分析の対象とはしていない。

1. 自民党に勝利をもたらしたもの

(1) 自民投票者「景気・雇用対策」重視

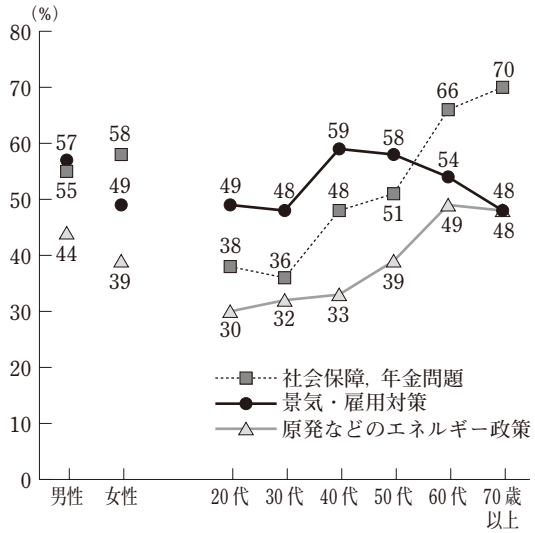
まず，今回の選挙ではどんな課題が重視されたのかみていきたい。選挙で投票した人[1)]に，10項目を示していくつでも答えてもらった。その結果，全体では「社会保障，年金問題（56%）」が一番多く，「景気・雇用対策（53%）」「原子力発電などのエネルギー政策（41%）」が続いている（**図1**）。

図1　参院選で重視した課題
（投票した1,857人）複数回答



上位3つの課題を年層別にみると，「社会保障，年金問題」と「原子力発電などのエネルギー政策」は，年齢が上がるほど多くなる傾向がある。「景気・雇用対策」は働き盛りの40代で多くなっている（**図2**）。

図2　参院選で重視した課題
（投票した1,857人・男女と年層別）複数回答　上位項目



重視した課題を，比例代表で自民党と民主党のどちらに投票したかで比較した（**図3**）。自民党では「景気・雇用対策」が61%で一番多くなっているが，民主党では「社会保障，

図3　参院選で重視した課題
（投票した1,857人・比例投票別）複数回答

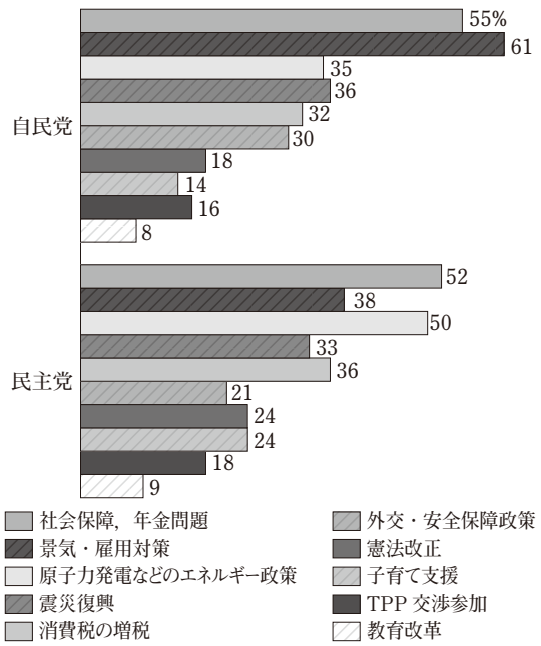
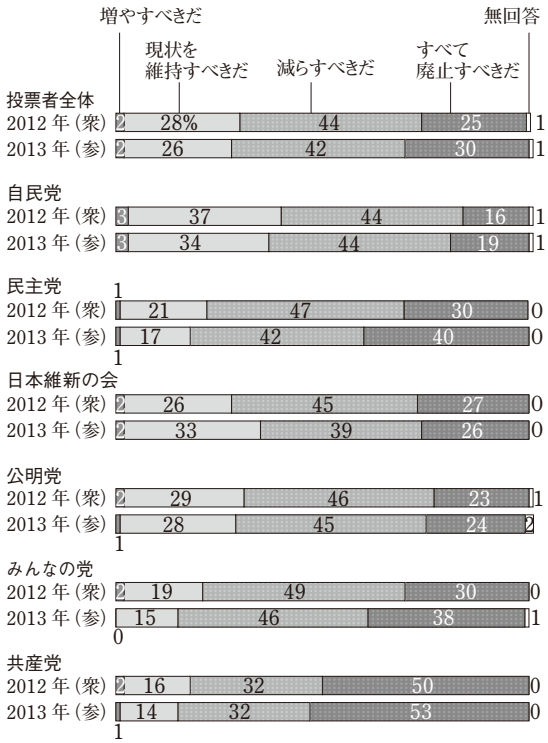


図4　原発をどうすべきか
（投票した1,857人・比例投票別）



年金問題（52％）」と「原子力発電などのエネルギー政策（50％）」が多くなっていて，「景気・雇用対策」は38％だった。

(2) 経済対策への評価が背景に

次に，自民党が支持を集めた背景を，参院選の各公約に対する有権者の評価という観点からみていく。

自民党の選挙公約の中から，今回の調査で質問した「原子力政策」「憲法改正の手続きを定めた96条の改正」「経済政策」についてみていきたい。自民党の選挙公約では，それぞれ「安全性が確認された原発の運転再開に向けて地元自治体の理解が得られるよう最大限努力する」「憲法改正の発議要件を『衆参両院のそれぞれで過半数』に緩和する」「経済政策（アベノミクス）を推進する」という方向性が示されている。

まず，「原子力政策」についてみていく。**図4**は，参院選で投票した人に原発を今後どうすべきと思うか尋ねた結果である。

投票者全体では，「増やすべきだ」と「現状を維持すべきだ」を合わせても3割に満たない。一方，「すべて廃止すべきだ」と「減らすべきだ」を合わせると7割以上を占めた。また，この質問は，第46回衆院選後の2013年2月に実施した調査でも尋ねているが，この時と比べて「すべて廃止すべきだ」が25％から30％に増加していて，原発に対して否定的な意見が増えている。

比例代表で投票した政党別にみてみると，自民党でも『増やす・現状維持』は36％[2)]にとどまっていることが分かる。

次は「憲法96条」についてである。96条では，憲法改正の手続きを始めるために，まず衆参それぞれですべての議員の「3分の2以上の賛成」が必要だと定めている。これを「過半数の賛成」に改正する必要があるかどうか尋ねた結果，「必要がある」と答えた人は3割弱にとどまった（**図5**）。

比例代表の自民党投票者でも「必要がある」は36%にとどまっている。

図5　96条改正の是非
（投票した1,857人・比例投票別）

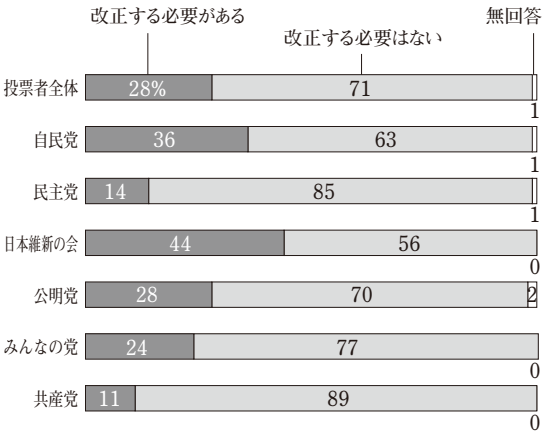
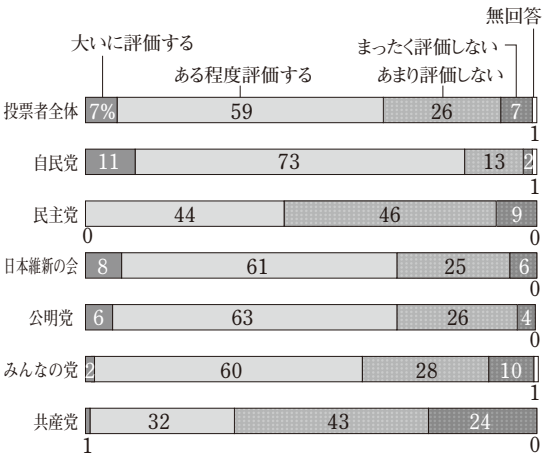


図6　経済政策の評価
（投票した1,857人・比例投票別）



最後に「経済政策」についてみていく。安倍総理大臣の経済政策を評価するかどうか尋ねた結果が**図6**である。

『評価する（大いに＋ある程度）』[3)]は66%，『評価しない（まったく＋あまり）』は34%だった。比例代表の自民党投票者をみると『評価する』が84%と圧倒的に多くなっている。（1）でみたように，自民党投票者では，投票で重視した課題について「景気・雇用対策」が一番多くなっていたことを考え合わせると，自民党の勝利には「経済対策」への評価が大きく影響していたと思われる。

（3）それほど意識されなかった「ねじれ解消」

今回の選挙では，衆議院で多数を占める与党が参議院で少数となっている「ねじれ」が解消されるかどうかが争点の1つと言われていたが，有権者はそれをどの程度意識して投票したのだろうか。

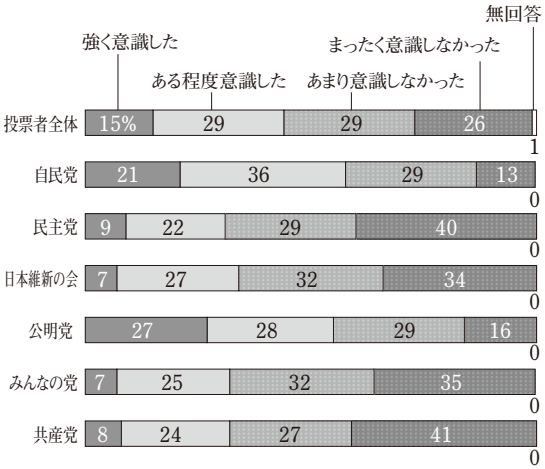
投票する際に，「ねじれ」を解消することを意識したかどうか尋ねたところ，投票者全体で『意識した（強く＋ある程度）』という人は44%，『意識しなかった（あまり＋まったく）』人は55%となり，『意識しなかった』人の方が多かった。

比例代表の自民党投票者をみても，『意識した』人は57%だった（**図7**）。

与党は，いわゆる「決められない政治」の原因になっているとして，「ねじれ解消」の必要性を訴えていたが，有権者はそれほど「ねじれ解消」を意識して投票していたわけではなさそうだ。

これまでみてきたように，自民党に勝利をもたらしたのは，安倍政権の半年余りの経済政

図7　ねじれ解消意識
（投票した1,857人・比例投票別）



策（アベノミクス）への評価が中心的な要因で，このために与党に票が集まって，結果的に「ねじれ」が解消されたとみるのが適切であろう。

自民大勝の背景に関しては，有権者の野党に対する評価も忘れてはならないが，これについては4章で詳しく触れる。

2. 憲法改正についての考え方

(1)「改正必要」多数だが時系列で減少

安倍総理大臣は，2013年2月28日に第2次安倍内閣発足後初めての施政方針演説を行い，「憲法改正に向けた議論を深めよう」と呼びかけた。

憲法改正に意欲を見せた安倍総理大臣だが，参議院選挙が近づくにつれて強調することはあまりなくなり，大きな争点とはならなかった。しかし，衆参の「ねじれ」を解消した安倍政権のもと，今後議論が本格化することも考えられる。そこで本章では，憲法に関する有権者の意識についてみていく。

まず，憲法の改正について尋ねた結果をみてみる。憲法改正が必要と思うかどうか尋ねたところ，回答者全体で「必要がある」と答えた人は56％で，「必要はない」の43％を上回った。しかし，前回の衆院選後の調査と比較すると，「必要がある」は65％から56％に減少している（**図8**）。

図8　憲法改正の是非（全体）

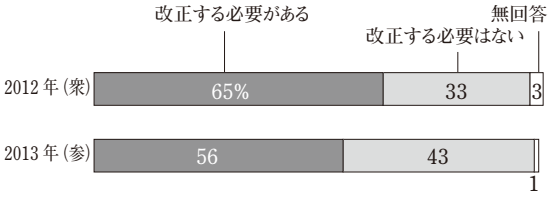
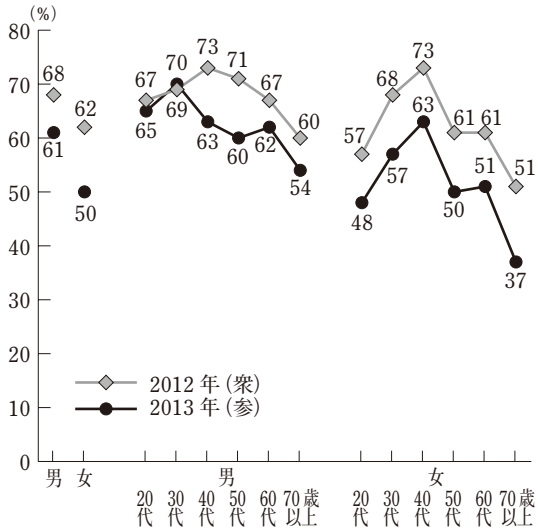


図9　憲法「改正する必要がある」
（男女年層別）



「改正する必要がある」という人を男女年層別にみたのが**図9**である。衆院選後の調査と比較すると，男性20・30代以外のすべての年層で減少傾向がみられる。

また，今回の調査では，「必要あり」「必要なし」の人にそれぞれ理由を尋ねている。「必要あり」の人に，3つの選択肢を挙げて理由を

図10　憲法改正肯定の理由
（「改正する必要がある」1,464人）

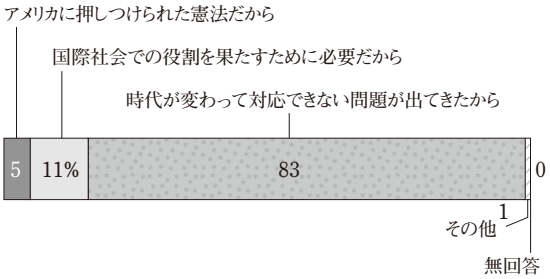
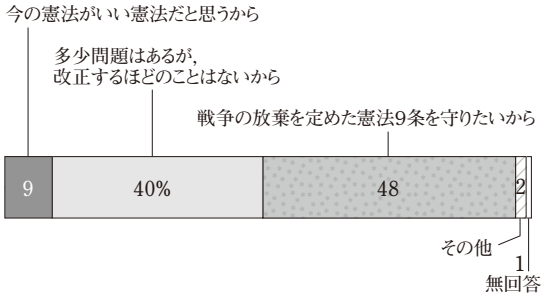


図11　憲法改正否定の理由
（「改正する必要はない」1,128人）



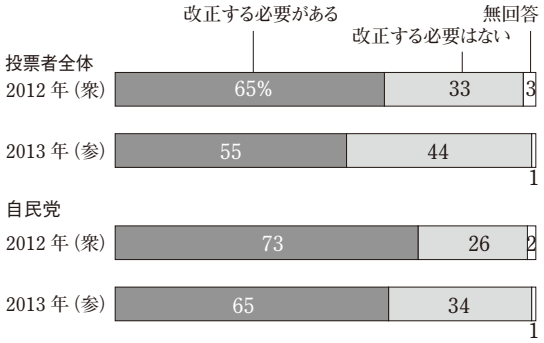
尋ねたところ，「時代が変わって対応できない問題が出てきたから」が83％と圧倒的な割合を占めた（**図10**）。

一方，「必要ない」という人にも3つの選択肢の中から選んでもらったところ，「戦争の放棄を定めた憲法9条を守りたいから」が48％，「多少問題はあるが，改正するほどのことはないから」が40％と意見が分かれた（**図11**）。

投票した人全体と比例代表で自民党に投票した人の結果をみると，投票者全体の結果は回答者全体とほとんど同じで，時系列での変化も同様である。自民党投票者では，「必要あり」が65％と投票者全体より多くなっているが，前回の衆院選後の調査より減少していることは変わりない（**図12**）。

全体でも自民党投票者でも憲法改正が「必要」という人の方が多い。しかし，時系列では

図12　憲法改正の是非
（投票した1,857人・比例自民投票者）

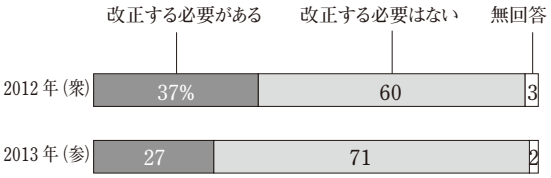


どちらも「必要」が減少していて，その減少幅も小さくないことは留意する必要がある。

（2）3割を切る「9条改正必要」

次に，いわゆる「戦争放棄」を定めた憲法9条についてみていく。9条の改正については「必要あり」という人が3割弱にとどまった。衆院選後と比べてもかなり減っている（**図13**）。

図13　9条改正の是非（全体）



男女年層別でまず注目されるのが，男女の意識の差である。「改正する必要がある」という人は，男性で36％，女性で19％と大きな違いがある。年層を衆院選後の調査と比較すると，男女20代以外の年層で減少傾向となっていて，特に男性40代で51％から34％へと大きく減っている（**図14**）。

「必要あり」「必要なし」の人それぞれに，4

図14　9条「改正する必要がある」
（男女年層別）

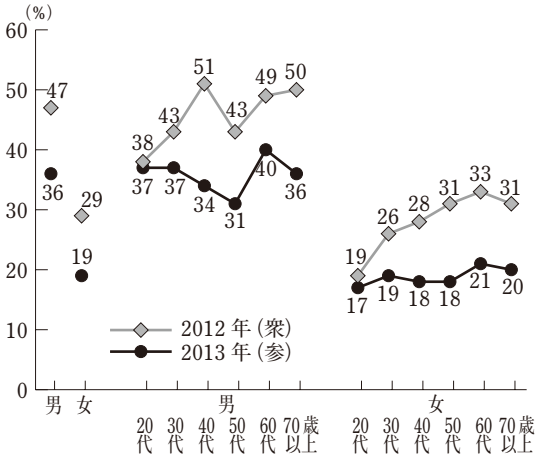
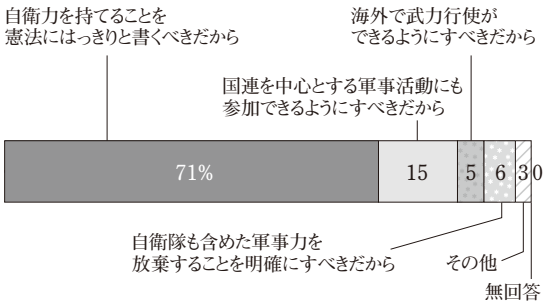


図15　9条改正肯定の理由
（「改正する必要がある」713人）



つの選択肢を挙げて理由を尋ねたところ，「必要あり」の人では「自衛力を持てることを憲法にはっきりと書くべきだから」が71%を占めた（**図15**）。

一方，「必要ない」という人に4つの選択肢の中から選んでもらったところ，「平和憲法としての最も大事な条文だから」が63%となった（**図16**）。

9条改正問題でも，投票者全体の結果は回答者全体とほとんど同じで，時系列での変化も同様である。比例代表の自民党投票者も衆院選後の調査では「必要」「不必要」が拮抗して

図16　9条改正否定の理由
（「改正する必要はない」1,870人）

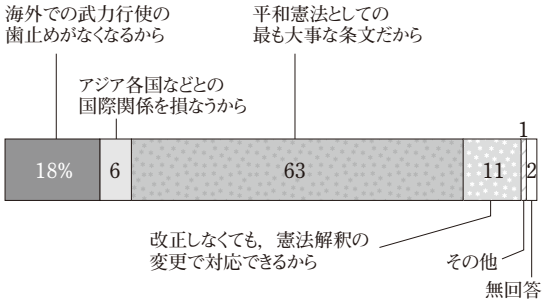
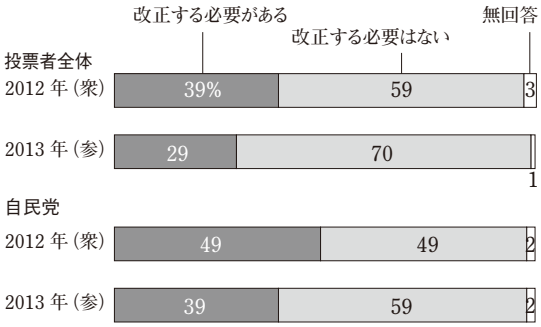


図17　9条改正の是非
（投票した人1,857人・比例自民投票者）



いたが，今回は「不必要」が上回った（**図17**）。

さて，ここで再び憲法96条について触れる。1章の（2）では「96条改正の是非」を投票した人に限って示したが，これを回答者全体でみても，「必要あり」は3割弱にとどまっている（**図18**）。

「改正する必要がある」を男女年層別でみると，女性20代・50代・70歳以上で特に少なくなっている（**図19**）。

先に見たように，憲法改正については「必要あり」が過半数となっているものの，時系列では減少していた。9条の改正については，そもそも「必要あり」が3割を切っていて，時系列

図 18　96 条改正の是非（全体）

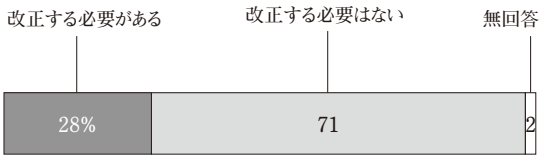
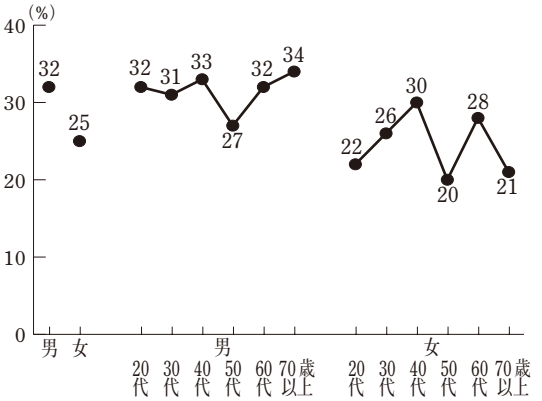


図 19　96 条「改正する必要がある」
（男女年層別）



でも減少している。さらに，96条の改正についても「必要あり」は3割弱にとどまっている。

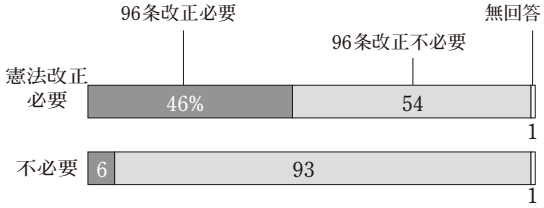
こうしてみてみると，有権者の意識が，憲法改正に否定的な方向に動いていることが読み取れる。憲法改正の発議要件の緩和も公約に入れて選挙で大勝した自民党だが，この公約が支持されての勝利ではなかったと言えよう。

(3) なぜ「96 条改正必要」が少ないのか

憲法に関する調査結果の中で，憲法の改正が「必要」という人は56％いるのに，憲法を変えやすくする96条の改正が「必要」という人は28％にとどまっている。この間にはどのような関係があるのだろうか。

そこで，「憲法改正」と「96条改正」のクロス集計をみてみる。**図20**は，憲法改正が「必要」と「不必要」をそれぞれ100％として，そ

図 20「憲法改正」と「96 条改正」の関係
（「憲法改正」の回答別）



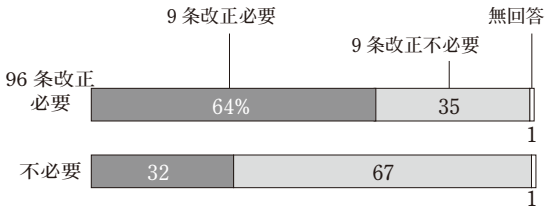
の中で96条の改正に関して「必要」と「不必要」がどのくらいあるかを示している。これをみると，憲法改正が「必要」という人の中でも96条の改正は「不必要」という人が54％いる。

憲法の改正は必要としながらも，簡単に変えられるようにすべきではないという人が半数以上いることが分かる。

では，憲法の改正は必要でも96条の改正は必要ないという人の意識の背景には何があるのだろうか。

これを検証するために，憲法の改正が必要という人をさらに細かくみていく。**図21**に，憲法の改正が必要という人の中で，96条改正の必要がある・ないと答えた人が9条の改正についてどのように考えているかを示した[4)]。上のグラフは憲法の改正が必要で96条の改正も必要だという人，下は憲法の改正は必要だが96条の改正は不必要だという人を100％として9条との関係をみた。

図 21 憲法改正が必要という人の中の
「96 条改正」と「9 条改正」の関係
（憲法改正必要 1,464 人・「96 条改正」の回答別）



ここで注目したいのは，96条の改正は「不必要」という人についてのグラフで，9条の改正が「不必要」と答えた人が67%に上ったことである。

憲法の改正は必要でも96条の改正は不必要という人の意識の背景の一つとして，9条を変えることへの抵抗感があることがうかがわれる。

3. ネット選挙運動の受け止め方

(1) ネット情報に触れなかった人半数以上

今回から，選挙期間中に政党や候補者が自らの政策などについてインターネットで発信できるようになった。これが，有権者の選挙への関心を高めることにつながるのではないかという期待もあったが，選挙区の投票率が過去3番目に低くなったことからも，その効果は限定的だったとみられている。

では実際に，有権者はネット選挙運動をどう受け止めたのだろうか。

今回の調査では，ネット情報に触れたことで選挙への関心が高まったかどうかを，「ネットの情報には触れなかった」という選択肢も入れて尋ねた。その結果が**図22**である。

回答者全体で，触れていない人が半数を超えた。年層別にみると，年齢が上がるほど触れなかった人が多くなっている。

また，触れた人の中でも，ほとんどの人が選挙への関心について「変わらない」と答えている。

さらに，触れた人に対して，投票にあたってネット選挙運動をどの程度参考にしたかと尋ねたところ，『参考にした（大いに+ある程度）』という人は23%にとどまった（**図23**）。

図22　ネット選挙接触有無と関心の変化（全体）

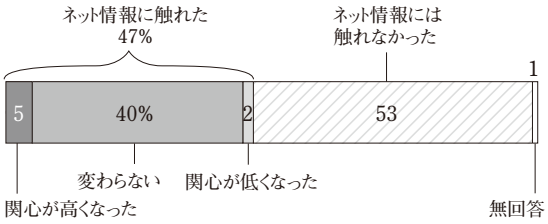
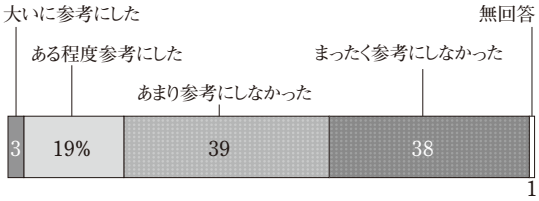


図23　ネット選挙参考度
（ネットに触れた1,224人）



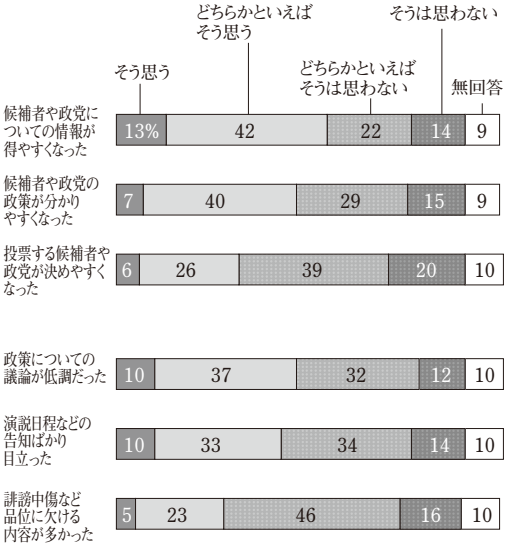
(2) 情報得やすいものの内容が薄い

ネット選挙運動の内容をどう感じたかについて調べるために，プラス面3・マイナス面3の計6項目について，それぞれどう思うか尋ねた（**図24**）。

プラス面で『そう思う（「どちらかといえば」を含む）』は，「候補者や政党についての情報が得やすくなった」が55%，「候補者や政党の政策が分かりやすくなった」が47%，マイナス面では「政策についての議論が低調だった」が47%などとなった。

ITの動向に詳しい東洋大学の山田肇教授は，候補者の情報発信について「『今日も元気に頑張っています』といった類のメッセージばかりだった」と指摘している[5)]。今回の調査結果からも，ネット選挙運動の解禁によって情報の窓口は広がったものの，その内容は必ずしも充実したものではなかったことが読み取れる。

図 24　ネット選挙評価
（ネットに触れた 1,224 人）



(3) 触れたのは政治的関心の高い人

ネット情報に触れた人と触れなかった人の間にはどのような違いがあるのだろうか。ネット接触の有無を3つの年層に分けた上で，「国の政治にどの程度関心があるか」「政治について話し合うことがどの程度あるか」「政治の情報を得るためにネットを利用することがあるか」という3つの質問との関係をみてみた（**表1**）。年層で区分したのは，ネット接触は若年層で多く高年層で少ない傾向があり，単にネット接触の有無だけで分けると，年齢の違いが影響してしまう可能性があるためである。

『国の政治に関心がある（非常に+ある程度）』『政治について話し合うことがある（よく+ときどき）』という，政治的関心が高い人は，おおむねどの年層でも「触れた」人の方が多くなっている。また，『政治情報を得るためにネットを利用する（よく+ときどき）』という人も「触れた」人の方が多くなっている。

ネットに触れたのは，もともと政治的関心が高い人，日頃からネットで政治情報に触れている人が中心だった。また，発信内容も薄かったために，触れた人でもあまり参考にならず，全体として選挙への関心を高めるものにはならなかったとみられる。

政党・候補者にとって今回が初めての経験であり，慣れない部分もあったと思われるが，発信する情報を充実させ，日頃政治に関心のない人も取り込めるかどうかが，今後，ネット選挙運動を普及させるうえでポイントの一つとなるであろう。

表 1　ネット接触有無別にみた意識や行動の違い
（全体・年層別）

（%）	全体	20～39歳		40～59歳		60歳以上	
		触れた	触れない	触れた	触れない	触れた	触れない
	2,627人	407人	187人	467人	458人	350人	745人
国の政治関心ある	79	75 ＞	60	81 ＞	76	85	83
政治について話し合うことある	57	50 ＞	39	61 ＞	50	69 ＞	63
政治情報得るためネット利用する	32	69 ＞	39	59 ＞	18	27 ＞	5

※＜＞は，開いている方が統計的に有意に高いことを示す（信頼度 95%）。

4. 政党支持と衆参与党多数についての評価

(1) 自民党一党優位の支持政党

今回の選挙は自民党が衆議院に続き大勝し，民主党が大敗するなど与党と野党で明暗を分ける結果となったが，人びとは政党についてどのようにみているのであろうか。この調査では，1党だけ選択してもらう①「ふだん」の支持政党②「いま」の支持政党のほか，③政

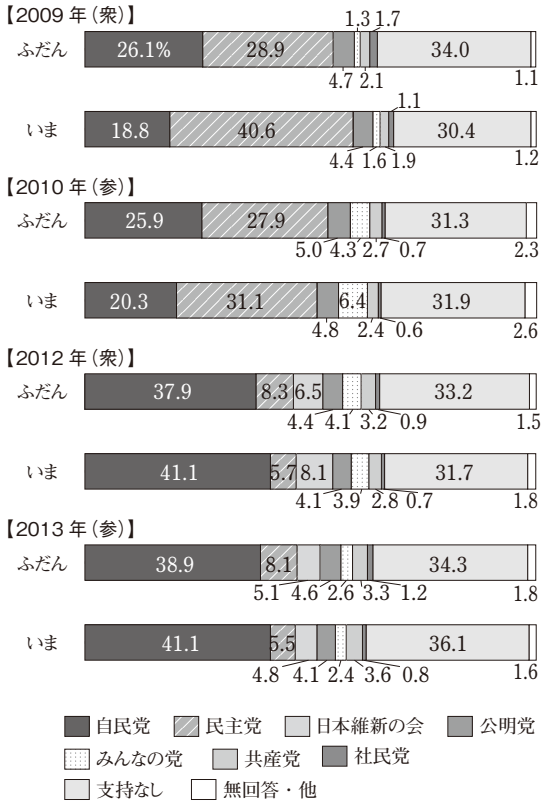
党ごとの支持強度の3種類の質問をしている。

まず，政党支持率についてみると（**図25**），今回は「ふだん」「いま」とも自民党が4割，ついで「支持なし」が3割強を占め，2番目の民主党でも10％に届かない。自民党と民主党の支持率の差は「ふだん」では31％，「いま」では36％と大きく，自民党が一党優位となっている。

2010年（参）と比べると，民主党が支持を大きく減らし，逆に自民党が支持を大きく伸ばしている。また，3年前は1位の政党と2位の政党の支持率の差が「ふだん」で2％，「いま」でも11％と今回に比べると開いていなかった。政党支持状況は3年前の参院選から様変わりしたのがわかる。

「ふだん」と「いま」の支持率の差をみると，

図25　政党支持率「ふだん」と「いま」（全体）



2009年（衆）の民主党は，「ふだん」28.9％にくらべ「いま」は40.6％と12％ほど多く，民主党への追い風があったと考えられる。今回の参院選で自民党が大勝しているが，「ふだん」と「いま」の差はほとんどなく，追い風が吹いたわけではない。

2012年（衆）と比べ変化があるのは，日本維新の会とみんなの党で，それぞれ支持率を減らしている。「いま」の支持では日本維新の会の減少が大きい分，「支持なし」が増加している。

（2）政党支持強度，野党へは不支持感

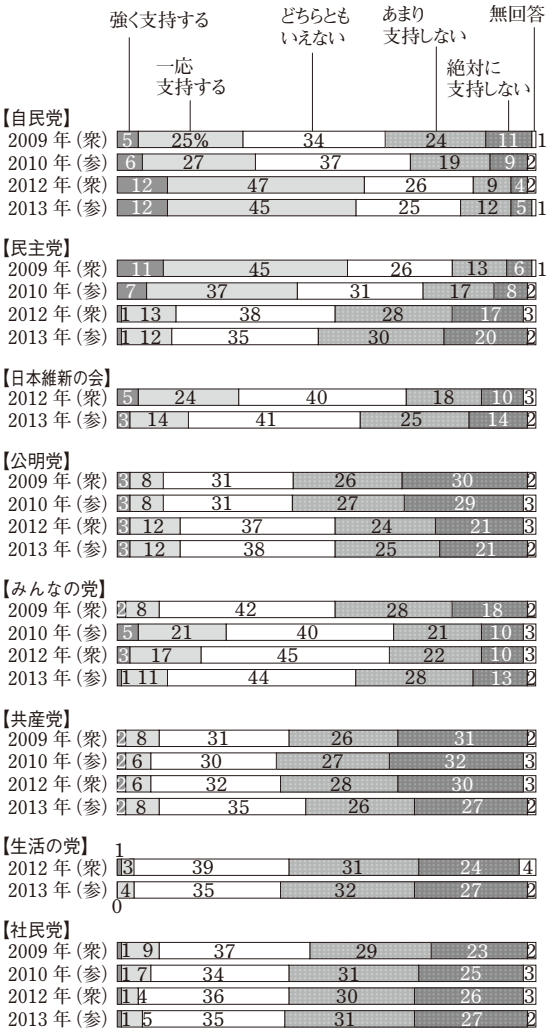
次に，政党ごとに「強く支持する」から「絶対に支持しない」までの5段階で支持の強さを尋ねた，政党支持強度の結果（**図26**）をみてみよう。支持感だけでなく，不支持感もみることができるのが特徴である。

自民党は，『支持する（「強く支持する」＋「一応支持する」）』が56％と政党の中で最も高く，『支持しない（「あまり支持しない」＋「絶対に支持しない」）』は18％と少ない。過去からの変化をみると，2009年の民主党による政権交代直後は『支持しない』が『支持する』よりやや多かったが，2010年（参）では『支持する』の方がやや多くなり，2012年（衆），2013年（参）とも『支持する』の方が大幅に多くなっている。

一方，民主党は，2009年，2010年は『支持する』が『支持しない』を大幅に上回っていたが，2012年（衆），2013年（参）では『支持しない』が『支持する』を大幅に逆転している。

『支持する』が『支持しない』を上回ったことがあるのは，自民党と民主党だけである。しかし，自民党，民主党とも『支持』を6割近く得ていても，「強く支持」は少なく，「一応支持」

図 26　政党支持強度（全体）



がその8割を占めていて，支持が固いわけではない。

その他の政党についてみると，2012年の衆院選直前に誕生した日本維新の会は，2012年（衆）では『支持する』『支持しない』が互角であったが，半年後の2013年（参）では，『支持する』が減少し，『支持しない』が上回っている。

みんなの党は結成された年の2009年（衆）は『支持する』は少なかったが，2010年（参）になると，民主党や自民党に批判的な人たちの受け皿として『支持する』を大幅に伸ばした。しかし，日本維新の会が登場した2012年（衆）以降は，『支持する』が低下している。

一方，公明党は政権交代前は『支持しない』が過半数だったが，政権与党となった2012年（衆）では，大幅に減らした。

今回の参院選で善戦した共産党は，2012年（衆）と比べ『支持しない』が減少しているが，依然として『支持しない』が過半数である。

生活の党，社民党についても，『支持しない』が過半数となっていて，『支持する』はわずかしかない。

今回の選挙で『支持する』が多数となったのは自民党のみで，自民党以外の政党では，『支持する』より『支持しない』方が圧倒的に多い。支持政党で示された自民党一党優位の状況は，このように自民党以外の政党を選択する余地が乏しい中から生まれたものと言えよう。

(3) 日本維新の会『支持する』が大幅減

2012年（衆）から『支持する』が最も変化したのは，日本維新の会である。日本維新の会は今回，『支持する』を大幅に減らし，『支持し

図 27　政党支持強度・日本維新の会『支持する』
（男女年層別）

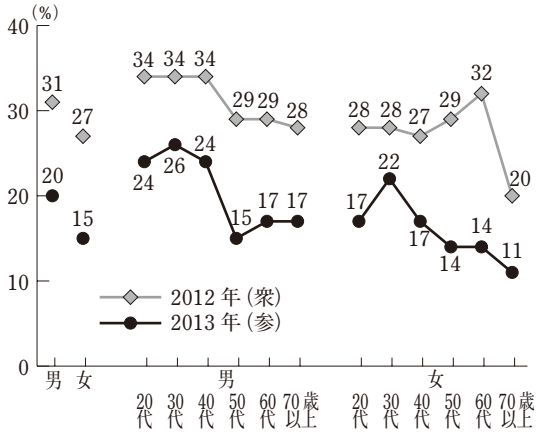


表 2　政党支持強度・日本維新の会（全体・いまの支持政党別）

		全体		いまの支持政党									
				自民党		民主党		日本維新の会		公明党		支持なし	
		12年（衆）	13年（参）	12年（衆）	13年（参）	12年（衆）	13年（参）	12年（衆）	13年（参）	12年（衆）	13年（参）	12年（衆）	13年（参）
	（%）	2,696人	2,627人	1,109人	1,081人	153人	144人	219人	125人	110人	109人	855人	949人
日本維新の会	『支持する』	29 ＞	17	29 ＞	18	18	12	95	94	14	10	19 ＞	9
	どちらともいえない	40	41	41	39	39	37	5	4	38	44	50	52
	『支持しない』	28 ＜	39	28 ＜	42	39 ＜	50	0	2	44	41	30 ＜	37
	無回答	3	2	3	2	4	1	0	0	5	5	1	2

※＜＞は，開いている方が統計的に有意に高いことを示す（信頼度 95%）。

ない』の方が大きくなった。

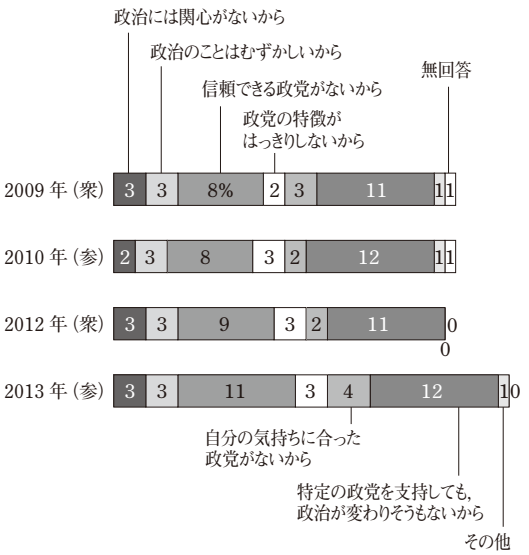
『支持する』の変化を男女年層別（**図27**）にみると男女とも大きく減り，おおむねどの年層でも減少している。特に男性50代以降，女性50代・60代での減少が顕著となっている。

支持政党別（**表2**）にみても，日本維新の会の支持者以外では『支持する』が減少傾向にある。自民党支持者では『支持する』と『支持しない』が同じ程度だったが，『支持しない』の方が多くなった。日本維新の会支持者以外，『支持する』より『支持しない』方が多い。

(4) 支持政党がない理由

政党支持で自民党に次いで多いのは支持政党がない人である。支持政党がない理由について尋ね，全体での割合をみた（**図28**）。「特定の政党を支持しても，政治が変わりそうもないから」が12%，「信頼できる政党がないから」が11%で，政党に関わる理由が主となっている。2012年（衆）と比べ，「信頼できる政党がないから」「自分の気持ちに合った政党がないから」が増加している。このように支持なしの増加は，政党に対する評価が低下したことによるもので，政党支持強度でみたように，自民党以外の政党，とりわけ民主党，日本維新の会，みんなの党といった主な野党の不支持の増加と関連しているといえよう。

図 28　支持政党がない理由（全体）



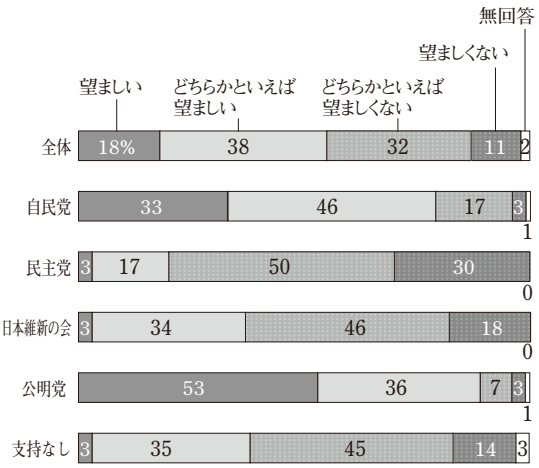
(5) 衆参与党多数　肯定が過半数

選挙の結果，衆議院，参議院ともに与党の議席は過半数となったが，この状態について『望ましい』は55%，『望ましくない』は43%で，衆参与党多数を肯定的にみる人が過半数となった（**図29**）。

衆参与党多数の評価をいまの支持政党別にみると，自民党と公明党の与党支持者では『望ましい』が多数だが，民主党などの野党支持者では『望ましくない』が多数となり対照的である。支持なしも『望ましくない』が多数を占め，与党支持者かどうかで評価が分かれている。

野党支持者で衆参与党多数について肯定

図 29　衆参与党多数についての評価
（全体・いまの支持政党別）



ダーシップがある」でともに33%，次いで「外国と信頼関係を築いていける」25%だが，政権交代直後の2012年（衆）と比べ「人材が豊か」が41%から33%へ，「外国と信頼関係」が35%から25%へと，かなり減少している。

民主党については，「国民の立場に立った政策」が11%と最も多いが，2009年（衆）の42%と比べ大幅に減少している。

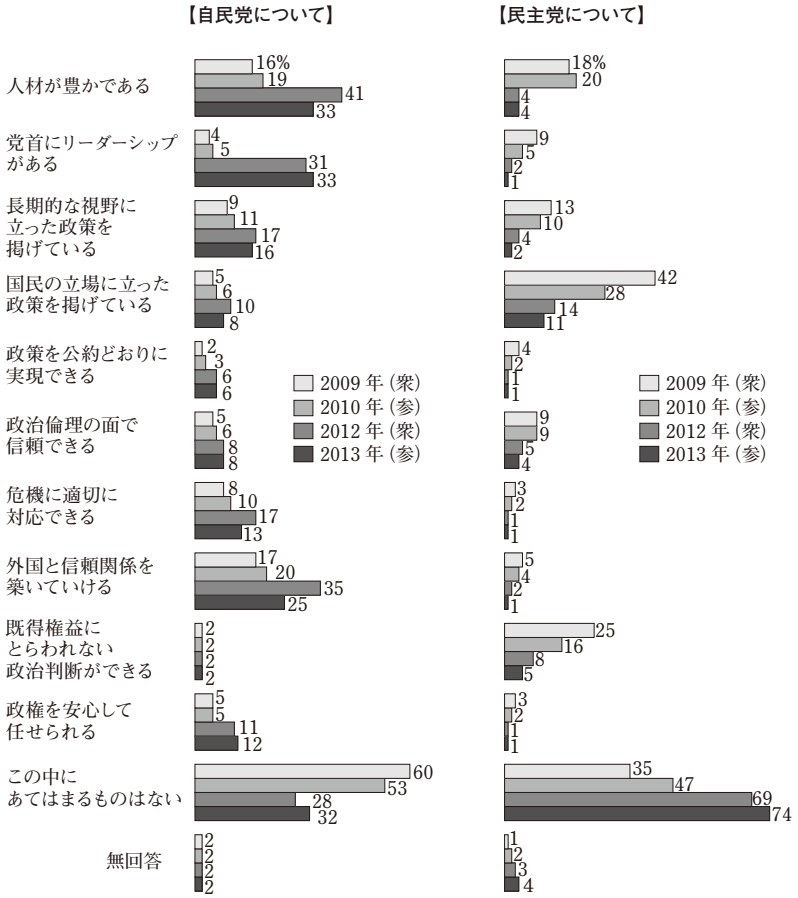
また，自民党，民主党とも，「あてはまるものはない」が2012年（衆）に比べ増えている。

自民党支持率は高いが，自民党の『支持感』のほとんどは「一応支持する」で，固い支持とする人が少ないにもかかわらず全体では衆参与党多数を肯定する人が過半数なのは，野党全体を合わせても支持が非常に少ないことによるものである。現状では，自民党を支持する人が多いことから，衆参与党多数の状態を肯定する人が多くなっている。

(6) 自民党評価 個別には減少

自民党と民主党について，**図30**にあげた評価項目の中からそれぞれにあてはまるものを選んでもらった。まず，自民党についての評価で，最も多かったのは「人材が豊かである」「党首にリー

図 30　政党個別評価（全体）複数回答



いうわけではない。また，評価の中で「あてはまるものはない」が増えるなど自民党の支持も安定しているわけではない。

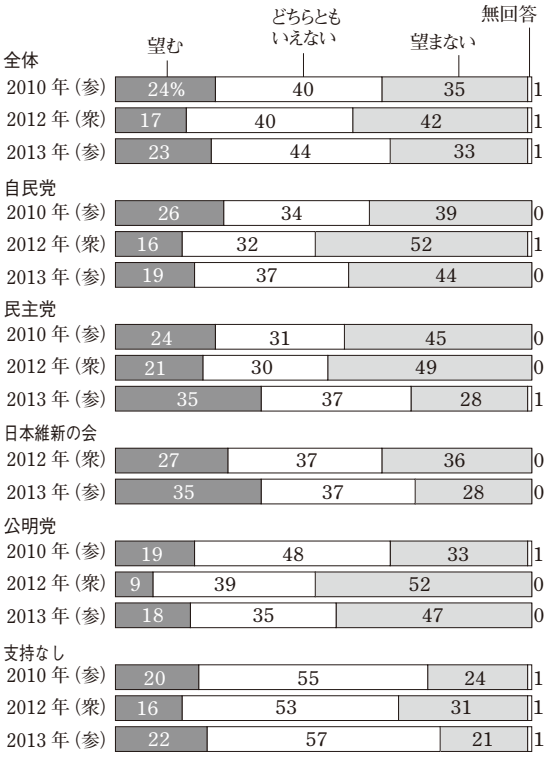
5. 今後の政界について

(1) 政界再編「望まない」が大幅に減少

政党に対する支持や評価についてみてきたが，最後に，政界再編への期待，政党のあり方，期待する政党像について尋ね，政党にどのような期待をしているのか探った。

2012年の衆院選直前には大阪維新の会を母体とした日本維新の会に太陽の党が合流し，衆院選直後には生活の党が日本未来の党から分党するなど，政党の離合集散が繰り返された。政界再編について，有権者はどのように考えているのだろうか。

図31　政界再編の期待
（全体・いまの支持政党別）



今後も政界が再編されることを望むかどうか尋ねたところ（**図31**），政界再編を「望む」23%，「望まない」33%，「どちらともいえない」44%で「どちらともいえない」が最も多い。

支持政党により考え方は異なり，自民党，公明党の与党支持者では「望まない」が最も多い。一方，民主党，日本維新の会の支持者では「望む」「どちらともいえない」が「望まない」よりも多くなる。支持なしは，「どちらともいえない」が過半数で，「望む」と「望まない」が同程度となっている。

全体の結果を2012年（衆）と比べると，「望まない」が42%から33%に減少し，「望む」「どちらともいえない」が増えた。この結果は2010年（参）と近く，政界再編への意識は自民党への政権交代前に戻っているように見える。

いまの支持政党別にみると，2012年（衆）と比べいずれの政党でも「望まない」が減り，「望む」が増えている。しかし，2010年と比べてみれば，自民党，公明党は「望まない」が増加し，民主党では「望む」が増加，「望まない」が減少，「支持なし」では「望まない」が減少している。

政界再編への期待は政権与党支持者かどうかで意識が異なっているが，2012年（衆）と比べると，後に述べるようにどの政党支持者でも「望まない」が減少していることが注目される。

(2) 政党のあり方　2大政党を期待

日本の政党のあり方としてどのような形がいいか尋ねたところ（**図32**），「政策に差がある2大政党」が最も多く34%，次いで「政策が近い2大政党」29%となり，政策の違いを別に

図 32　日本の政党のあり方（全体）

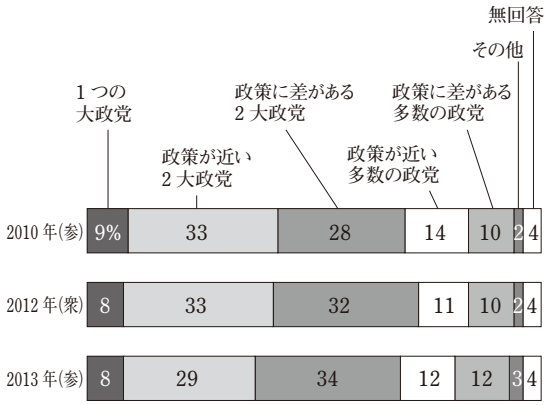
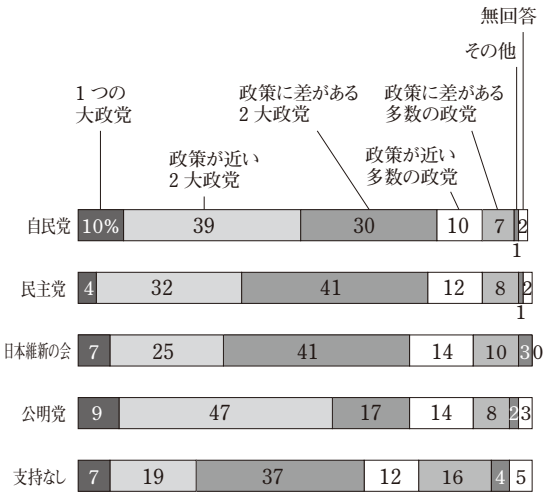


図 33　日本の政党のあり方（いまの支持政党別）



すれば『2大政党』を望む人が6割強となる。

いまの支持政党別に『2大政党』を望む人をみると（**図33**），自民党，民主党で7割と高く，支持なしでも6割近くを占めるなど，支持政党にかかわらず『2大政党』を期待している。

(3) 政党への期待

長期的な視野に立った政策

では，有権者は政党にどのようなことを期待しているのであろうか（**図34**）。「期待することはない」は15%と少なく，有権者は政党に何らかの期待をしている。この中で多いのは，「長期的な視野に立った政策がある」46%，次いで「自分たちの意見を代弁してくれる」43%，「弱い者の立場に立ってくれる」42%となる。

政界再編の期待別にみると（**表3**），「望む」人では「長期的な視野」が最も多く過半数を占める。次いで，「弱い者の立場」「改革に意欲」「意見を代弁」となっている。全体と比べ，政

図 34　政党への期待（全体）複数回答

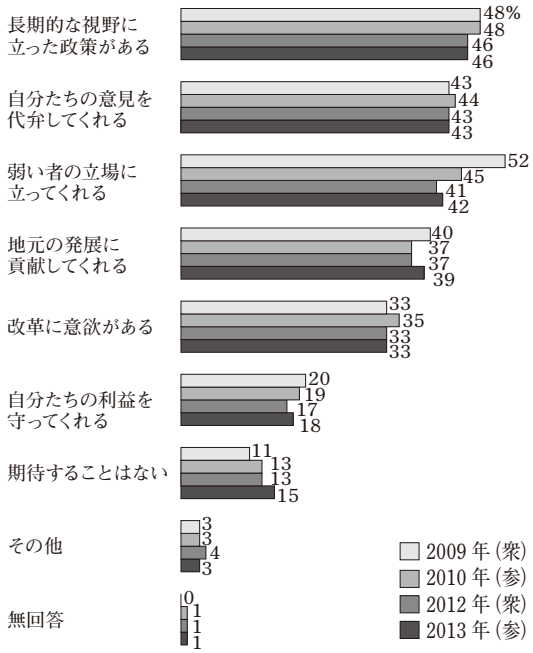


表 3　政党への期待
（全体・政界再編の期待別）複数回答

	全体	政界再編の期待		
		望む	望まない	どちらともいえない
(%)	2,627 人	595 人	860 人	1,152 人
長期的な視野	46	53	45	44
意見を代弁	43	43	44	43
弱い者の立場	42	44	40	42
地元の発展	39	36	43	39
改革に意欲	33	44	30	29
利益を守る	18	20	17	17

界再編を「望む」人では「長期的な視野」「改革に意欲」が多い。

政界再編を「望まない」が大幅に減少したのは，参院選を経て，自民党一党優位の状態がさらに強まった状況に対するバランス感覚が働いたのであろう。政界再編を「望む」人が増加し，その人たちの間では，「長期的な視野に立った政策」を掲げ，「改革に意欲」がある政党が期待されている。

おわりに

2013年7月の参議院選挙で自民党が大勝し，衆参のねじれが解消された。自民党の公約には「原発」「96条改正」「経済政策（アベノミクス）」が盛り込まれていたが，大勝の背景を探ると，安倍政権の半年余りの経済政策への評価が中心的な要因となっていたことが分かった。一方「原発」「96条改正」については，比例代表選挙の自民党投票者でも消極的・否定的な意見の方が多かった。

政党支持率は，自民党一党優位の状況にあるが，その内訳は弱い支持がほとんどを占める。民主党政権の崩壊，日本維新の会やみんなの党への支持の低下など現状では他に変わる政党がないから自民党を選択したということもあろう。参院でも与党多数となり，一党優位がさらに顕著となったためか，政界再編への期待も増えている。

今後3年間は国政選挙がないことも想定され，衆参与党優位の状況でさまざまな政策が論議されることになる。安倍政権の前には，集団的自衛権を巡る憲法解釈の問題，福島第一原発の処理とエネルギーの問題など，意見の分かれる重要な問題が山積している。「原発」「96条改正」の意識にみられるように，有権者は自民党の政権公約に掲げられていることすべてに賛成して自民党を選択した訳ではない。2014年4月には消費税率がアップするなど国民生活への影響も懸念される。衆参与党多数の状況の中，与党は一方通行の議論を押し通すことのないよう，長期的視点にたち，国民的立場，弱者に配慮した政策論議を示すことが期待されていると言えよう。

（こうの けい / こばやし としゆき）

注：

1）「投票した人」とは，単純集計の第19･20問（選挙区・比例代表の投票政党）で，「投票には行かなかった」「選挙権がなかった」と答えた人以外。

2）回答結果を足し上げる場合には，実数で足して％を計算しているので，％を足し上げたものと一致しないことがある。

3）本稿では，「大いに評価する」と「ある程度評価する」を合わせるなど，2つの選択肢をまとめる場合は，はじめに『評価する(「大いに+ある程度)』などと表示し，その後は省略して『評価する』などと書いている。

4）質問の順番は，①憲法改正，②96条改正，③9条改正。

5）山田肇「ネット選挙運動が盛り上がらなかった理由」2013年7月21日「THE HUFFINGTON POST」http://www.huffingtonpost.jp/hajime-yamada/post_5245_b_3630899.html（2013年7月25日閲覧）

「参院選後の政治意識・2013」調査　単純集計結果

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）
調査目的	国政選挙後に，選挙での投票行動・政治意識・生活意識・社会意識などを尋ね，選挙結果の背景や有権者の政治観を探る			
調査時期	2009年11月28日(土)～12月6日(日)	2010年9月11日(土)～9月20日(月)	2013年2月21日(木)～3月3日(日)	2013年9月7日(土)～9月16日(月)
調査方法	配付回収法			
調査対象	全国20歳以上の国民			全国の有権者
調査相手	住民基本台帳から層化無作為2段抽出 3,600人（12人×300地点）※			選挙人名簿から層化無作為2段抽出 3,600人（12人×300地点）
調査有効数（率）	2,658人（73.8%）	2,675人（74.3%）	2,696人（74.9%）	2,627人（73.0%）

※2012年（衆）は，外国人も住民基本台帳に記載されているため，外国人と思われる人は除いた。

※ ＜＞は，開いている方が統計的に有意に高いことを示す（信頼度95%）。

※ 右端から2番目（表形式では下から2番目）の＜＞は，2009年（衆）と2013年（参）の検定結果で，例えば「2013年（参）54.2%＜」ならば，2013年（参）が有意に高いことを示す。

※ 右端（表形式では下）の△▽は，2010年（参）と2013年（参）の検定結果で，例えば「2013年（参）54.2%△」ならば，2013年（参）が有意に高いことを示す。

※ 枝分かれ質問は，「該当者分母」で表示している。時系列比較が可能な質問は「全体分母」でも表示し，「全体分母」のみ検定している。

―生活の全体的満足感―

第1問　あなたは、今の生活に満足していますか，それとも不満ですか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 満足している	12.7	＜14.9	15.7	13.9
2. どちらかといえば，満足している	50.1	50.2	52.7	54.2 ＜△
3. どちらかといえば，不満だ	28.2	26.8	24.8	25.1 ＞
4. 不満だ	8.8	8.1 ＞	6.7	6.6 ＞▽
5. 無回答	0.3	0.1	0.2	0.2

―暮らし向き―

第2問　あなたは，今の暮らし向きについて，全体としてどのように感じていますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 苦しい	17.2	15.8 ＞	13.3	11.9 ＞▽
2. やや苦しい	46.2	45.7	44.9	45.2
3. 多少ゆとりがある	33.7	34.9 ＜	37.6	38.4 ＜△
4. ゆとりがある	2.6	3.4	3.7	4.3 ＜
5. 無回答	0.3	0.2	0.4	0.3

―生活上の心配―

第3問　あなたは，日常生活の中で，次のようなことがどの程度心配ですか。A～Jそれぞれについて，1つだけ○をつけてください。

		1. 心配である かなり	2. 少し心配である	3. どちらともいえない	4. 心配ではない あまり	5. 心配ではない まったく	6. 無回答
	（%）						
A. 自分の老後	2009年（衆）	38.4 ∨	39.4	11.9	8.5	1.2	0.6
	2010年（参）	34.9	40.4	12.2	10.0	1.5	0.9
	2012年（衆）	36.3	39.4 ∧	12.8	9.4	1.4	0.7 ∨
	2013年（参）	33.9 ∨	42.6 ∧	13.3	8.3 ▽	1.5	0.3 ▽
B. 自分や家族の健康	2009年（衆）	24.6 ∨	53.2	11.7	9.0	0.7 ∧	0.8
	2010年（参）	22.3	54.2	12.4	8.8	1.4	0.9
	2012年（衆）	23.3	53.3	12.4	9.0	1.1	1.0
	2013年（参）	23.6	52.9	13.0	8.7	1.1	0.6
C. 育児や教育	2009年（衆）	13.5 ∨	29.5	25.4	15.2	13.3	3.1
	2010年（参）	11.7	28.4	26.1	15.9	14.1 ∧	3.7
	2012年（衆）	10.7	27.3	25.9	15.6	16.2	4.3
	2013年（参）	11.1 ∨	25.3 ∨ ▽	26.4	16.1	17.3 ∧ △	3.8
D. 家族の介護	2009年（衆）	29.8	37.2	18.5	9.0	3.9	1.7
	2010年（参）	27.6	38.1	18.5 ∨	9.1	5.0	1.7
	2012年（衆）	28.9	37.9	16.1	10.4	5.0	1.7
	2013年（参）	28.8	37.5	17.1	10.2	4.8	1.5
E. 失業やリストラ	2009年（衆）	23.7 ∨	29.4	18.5	15.7	10.6 ∧	2.0
	2010年（参）	20.1	28.0	20.3	16.4	12.5	2.7
	2012年（衆）	18.2 ∨	25.7	22.1	17.4	13.7	2.8
	2013年（参）	15.5 ∨ ▽	25.4 ∨ ▽	23.6 ∧ △	18.3 ∧	14.9 ∧ △	2.3
F. 年収や家計	2009年（衆）	32.2 ∨	37.5	14.9	11.6	2.4	1.3
	2010年（参）	29.3	37.4	16.7	12.2	3.2	1.2
	2012年（衆）	27.7	38.5	16.9 ∧	12.1	3.5	1.3
	2013年（参）	25.9 ∨ ▽	38.1	19.4 ∧ △	12.3	3.3 ∧	1.0
G. 仕事上のストレス	2009年（衆）	14.6 ∨	29.2	25.7	17.3	10.6	2.6
	2010年（参）	12.7	30.4 ∨	25.6	16.2	12.3	2.8
	2012年（衆）	12.4	27.4	26.2	17.4	13.4	3.2
	2013年（参）	13.6	27.0 ▽	24.7	18.6 △	13.4 ∧	2.7
H. 地域の治安	2009年（衆）	6.8	31.2 ∨	27.4	28.4	5.1 ∧	1.0
	2010年（参）	6.2	26.3	28.6	30.8	6.9	1.2
	2012年（衆）	5.2	25.4	28.7	32.3 ∧	7.0	1.4
	2013年（参）	4.8 ∨ ▽	23.8 ∨ ▽	27.2	35.7 ∧ △	7.5 ∧	1.0
I. 地震・災害	2012年（衆）	32.2	39.8	15.1	10.3	1.7	0.9
	2013年（参）	33.3	40.9	14.3	9.1	1.9	0.5
J. 外国との戦争	2013年（参）	19.8	33.8	24.9	15.6	5.2	0.6

―市民意識―

第４問　あなたの今の生き方について，次の中から最も近いものに１つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 社会のために必要なことを考え，みんなと力を合わせ，世の中をよくするように心がけている	5.8	5.9	6.1	5.4
2. 自分の生活とのかかわりの範囲で自分なりに考え，身近なところから世の中をよくするように心がけている	35.6	33.6	34.1	35.7
3. 決められたことには従い，世間に迷惑をかけないように心がけている	45.1	46.2	45.4	43.8
4. 自分や家族の生活を充実させることを第一に考え，世間のことにはかかわらないよう心がけている	4.8	4.9	4.9	5.4
5. どれともいえない	8.4	9.0	8.6	9.1
6. 無回答	0.3	0.3 <	0.9	0.6

―政治への関心―

第５問　あなたは，お住まいの市区町村の政治，都道府県の政治，それに国の政治について，どの程度関心がありますか。Ａ～Ｃそれぞれについて，１つだけ○をつけてください。

	（%）	1. 非常に関心がある	2. ある程度関心がある	3. あまり関心がない	4. まったく関心がない	5. 無回答
A. 市区町村の政治	2009年（衆）	21.1 ∨	54.9	19.9 ∧	3.5 ∧	0.6
	2010年（参）	17.3 ∨	54.2	22.9 ∧	5.2	0.4
	2012年（衆）	15.3	53.9	25.5	4.7	0.6
	2013年（参）	14.0 ∨ ▽	55.7	24.7 ∧	4.9 ∧	0.6
B. 都道府県の政治	2009年（衆）	16.6 ∨	56.6	22.4 ∧	3.5 ∧	0.9
	2010年（参）	12.8	54.5	26.8	5.2	0.7
	2012年（衆）	11.7	54.1	28.3	4.9	1.0
	2013年（参）	10.6 ∨ ▽	55.9	28.0 ∧	4.8 ∧	0.7
C. 国の政治	2009年（衆）	36.2 ∨	47.6	12.5 ∧	3.2	0.5
	2010年（参）	32.5 ∨	46.8	16.1	4.0	0.6
	2012年（衆）	29.8	48.9	16.5	3.9	0.9
	2013年（参）	28.6 ∨ ▽	50.0 △	16.4 ∧	4.3 ∧	0.7

―政治への満足感―

第６問　あなたは，全体として，今の国の政治に満足していますか，それとも不満ですか。１つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 満足している	0.3	0.2 <	1.0	1.3 < △
2. どちらかといえば，満足している	16.5 >	8.9 <	23.4	23.4 < △
3. どちらかといえば，不満だ	60.9 >	58.0	57.5	55.7 >
4. 不満だ	21.9 <	32.7 >	17.7	18.8 > ▽
5. 無回答	0.4	0.2	0.4	0.8 △

―政治に対して不満な点―

第７問　では，国の政治に関して，あなたが不満に思っているのはなんでしょうか。次の中から，あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 財政再建の取り組み	50.5	34.2	35.2
2. 景気・雇用対策	69.6	55.6 >	49.9
3. 消費税を含む税制改革	49.4	54.0	51.7
4. 公務員制度などの行政改革	36.9	32.2 >	28.0
5. 子育て支援や少子化対策	35.2	30.5	28.2
6. 年金や医療などの社会保障政策	75.8	70.2 <	72.7
7. 外交・安全保障政策	28.7	30.9 >	27.4
8. 農業・畜産政策	23.3	20.2 >	18.0
9. 地球温暖化対策	29.4	19.0 <	24.9
10. 政治とカネの問題	57.6	42.8 >	36.9
11. 震災復興の取り組み	－	41.0 <	47.7
12. 原子力発電などのエネルギー政策	－	46.2 <	50.2
13. その他	3.9	3.3	3.0
14. 特にない	1.6	1.8	1.8
15. 無回答	0.2	0.6	0.8

―政治課題についての考え方―

第８問　これからの日本の社会や政治について，考え方がいろいろあります。Ａ～Ｈそれぞれについて，あなたのお考えに近いほうに１つだけ○をつけてください。

(A)

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 社会福祉が充実するなら，税負担が今より増えてもよい	71.2 <	75.5 >	70.8	72.3 ▽
2. 社会福祉が後退しても，税負担が少ないほうがよい	27.0 >	22.2 <	27.3	25.2 △
3. 無回答	1.8	2.3	1.9	2.5

(B)

	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 景気対策のためであれば，財政の悪化はやむをえない	30.5 >	26.4
2. 景気対策のためであっても，財政の悪化には反対だ	67.4 <	71.6
3. 無回答	2.1	1.9

(C)

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. 政権公約は国民との約束だから，その通りに実行するべきだ	25.4 <	35.0 <	44.4	46.3 < △
2. 政権公約は国民の支持が得られなければ，実現にこだわる必要はない	73.7 >	63.7 >	53.6	52.2 > ▽
3. 無回答	1.0	1.3 <	2.0	1.6

(D)

	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. チャンスが平等に与えられるなら，競争で貧富の差がついてもしかたがない	44.7	43.3
2. 競争の自由をまもるよりも，格差をなくしていくことの方が大切だ	53.1	54.3
3. 無回答	2.2	2.4

(E)

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. これからも，アメリカとの関係を外交の基軸にしていくべきだ	51.6 <	61.9 >	55.7 △
2. これからは，アジアとの関係に軸足を移していくべきだ	44.4 >	34.4 <	40.5 ▽
3. 無回答	4.0	3.7	3.8

(F)

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）(%)
1. 財政再建のために，消費税率を上げるのはやむをえない	51.7	53.0	54.3
2. 財政再建のためであっても，消費税率を上げるのは反対だ	46.1	45.1	44.1
3. 無回答	2.1	1.9	1.6

(G)

	2012年（衆）	2013年（参）(%)
1. 人間は，原子力を安全に利用することができる	35.4	>31.4
2. 人間は，原子力を安全に利用することはできない	61.9	<66.3
3. 無回答	2.6	2.3

(H)

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）(%)	
1. 治安を守るために，個人の権利が侵害されるのもやむを得ない	38.9	>33.3	>29.2	▽
2. 治安を守るためであっても，個人の権利が侵害されるのは反対だ	59.1	<64.6	<68.5	△
3. 無回答	2.0	2.1	2.3	

―民意は反映されているか―

第９問　あなたは，政治に対する国民の期待や要求は，どの程度，国の政治に反映されていると思いますか。１つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）(%)	
1. じゅうぶん反映されている	0.5	0.4	0.5	0.4	
2. ある程度反映されている	20.4	>13.5	<20.3	21.2	△
3. あまり反映されていない	66.2	65.2	63.1	63.2	>
4. まったく反映されていない	12.9	<20.5	>15.7	14.4	▽
5. 無回答	0.2	0.4	0.5	0.8	<

―民意反映の役割―

第 10 問　政治について，いくつかの意見があります。A～D のそれぞれについて，あなたは，どう思いますか。１つだけ○をつけてください。

		1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば	3. そうは思わないどちらかといえば	4. そうは思わない	5. 無回答
	(%)					
A. 選挙があるから国民の声が政治に反映される	2009年（衆）	20.8	43.7	26.1	8.8	0.5
			∨		∧	∧
	2010年（参）	19.0	41.0	27.1	11.7	1.1
					∧	
	2012年（衆）	17.6	40.2	27.6	13.5	1.2
		∨				
	2013年（参）	13.7	42.4	29.7	13.4	0.7
		∨		∧	∧	
		▽		△		
B. 国会があるから国民の声が政治に反映される	2009年（衆）	6.5	30.4	45.4	17.2	0.6
			∨			∧
	2010年（参）	7.6	27.9	46.0	17.3	1.2
				∨		
	2012年（衆）	7.0	30.2	42.3	19.1	1.5
						∨
	2013年（参）	6.3	30.2	44.4	18.4	0.7
C. 政党があるから国民の声が政治に反映される	2009年（衆）	6.3	31.8	42.9	18.3	0.8
			∨			
	2010年（参）	7.1	28.8	43.5	19.4	1.2
	2012年（衆）	7.0	28.6	43.1	19.8	1.5
						∨
	2013年（参）	6.0	28.5	44.4	20.4	0.8
			∨			
D. テレビ，新聞があるから国民の声が政治に反映される	2009年（衆）	16.7	47.1	25.5	10.1	0.6
			∨		∧	∧
	2010年（参）	16.9	42.7	26.8	12.4	1.2
		∨			∧	
	2012年（衆）	12.8	42.9	27.7	15.4	1.2
	2013年（参）	12.6	41.4	30.1	15.2	0.7
		∨	∨	∧	∧	
		▽		△	△	

―政治の変化期待―

第 11 問　あなたは今の政治が変わってほしいと思いますか。１つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）(%)	
1. 大きく変わってほしい	32.2	<38.4	>29.2	>22.8	>▽
2. ある程度変わってほしい	61.9	>57.0	<60.9	<64.4	△
3. あまり変わってほしくない	5.0	> 3.6	< 8.4	<11.1	<△
4. まったく変わってほしくない	0.7	0.4	0.8	1.1	△
5. 無回答	0.3	0.6	0.8	0.6	

―組織への信頼―

第12問　あなたは，次のA～Ｉのような組織について，どの程度信頼していますか。A～Ｉそれぞれについて，１つだけ○をつけてください。

		1. 信頼している	2. 信頼しているどちらかといえば	3. 信頼していないどちらかといえば	4. 信頼していない	5. 無回答
	（%）					
A. 国会	2009年（衆）	2.9	31.6	50.1 ∨	14.6 ∧	0.9
	2010年（参）	3.7	31.3 ∧	46.2	17.6 ∨	1.2
	2012年（衆）	3.9	35.4	44.3	15.0	1.3
	2013年（参）	4.2 ∧	36.6 ∧ △	43.5 ∨ ▽	14.9 ▽	0.8
B. 政府	2009年（衆）	2.4	33.0	48.9	14.7 ∧	0.9
	2010年（参）	2.6	30.8 ∧	47.7 ∨	17.8 ∨	1.1
	2012年（衆）	3.5	37.7	42.6	14.8	1.4
	2013年（参）	3.8 ∧ △	37.8 ∧ △	41.8 ∨ ▽	15.7 ▽	0.9
C. 政党	2009年（衆）	2.5	27.1 ∨	51.5	17.8 ∧	1.2
	2010年（参）	2.2 ∧	24.6 ∧	49.9	22.1 ∨	1.2
	2012年（衆）	3.4	27.5	48.6	19.0	1.5 ∨
	2013年（参）	3.2 △	28.1 △	49.0	18.9 ▽	0.9
D. 中央官庁	2009年（衆）	1.5	25.7 ∧	50.0 ∨	20.9	1.8
	2010年（参）	2.0	30.2	46.2	19.2	2.3
	2012年（衆）	1.9	30.0	47.9	17.6	2.5 ∨
	2013年（参）	2.6 ∧	31.8 ∧	46.0 ∨	18.0 ∨	1.6
E. 裁判所	2009年（衆）	12.9 ∧	58.7	20.4	6.4	1.6
	2010年（参）	16.4 ∨	57.0	18.9 ∧	6.1	1.6
	2012年（衆）	11.5 ∧	57.5	21.8 ∨	7.3 ∨	1.9
	2013年（参）	14.4 ▽	59.4	19.0	5.6	1.6
F. 地元の役場や役所	2009年（衆）	7.7	56.9	27.5 ∨	6.7	1.3
	2010年（参）	8.5	58.7	24.4	7.2	1.1
	2012年（衆）	9.6	60.1	22.2	6.5	1.6
	2013年（参）	9.3 ∧	62.0 ∧ △	22.1 ∨ ▽	5.6 ▽	1.1
G. 警察	2009年（衆）	11.2	57.9	22.3	7.5	1.0
	2010年（参）	12.6 ∨	56.8	22.0	7.4	1.2
	2012年（衆）	10.3	57.4	22.8	8.0	1.6 ∨
	2013年（参）	11.9	56.9	22.8	7.4	1.0
H. テレビ局	2009年（衆）	5.8	45.7	35.9	11.8	0.8
	2010年（参）	5.8	47.0	33.8	12.4 ∧	0.9
	2012年（衆）	5.3	45.7	33.1	14.5	1.3
	2013年（参）	5.4	43.7 ▽	35.4	14.6 ∧ △	0.9
I. 新聞社	2009年（衆）	8.1	58.1	24.8	8.1	0.8
	2010年（参）	8.9	57.0 ∨	24.8	8.4 ∧	0.9
	2012年（衆）	8.0	53.2	26.6	10.9	1.3
	2013年（参）	7.8	53.7 ∨ ▽	27.0	10.7 ∧ △	0.8

―政治観―

第13問　あなたは，政治に関する次の考え方について，どう思いますか。A～Ｆのそれぞれについて，１つだけ○をつけてください。

		1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば	3. そうは思わないどちらかといえば	4. そうは思わない	5. 無回答
	（%）					
A. 政治は自分の生活に関係ない	2009年（衆）	4.6	14.5 ∧	35.3	45.0 ∨	0.6
	2010年（参）	4.7	16.9	36.6	40.9	0.9
	2012年（衆）	4.9	17.4	38.1	38.5	1.0 ∨
	2013年（参）	4.8	17.0 ∧	39.5 ∧ △	38.2 ∨ ▽	0.5
B. 政治は政治家や専門家にまかせておけばよい	2009年（衆）	3.0 ∧	16.0	38.8	41.4 ∨	0.8
	2010年（参）	4.2	16.6	41.3	36.7	1.1
	2012年（衆）	3.9	18.4	39.8	36.6	1.3 ∨
	2013年（参）	3.3	17.3	40.8	38.0 ∨	0.6 ▽
C. 国民が国の政治について何か言っても，政治が変わるとは思わない	2009年（衆）	20.8	36.6	26.6	15.2 ∨	0.8
	2010年（参）	21.5 ∧	38.5	25.7	13.1	1.2
	2012年（衆）	24.6 ∨	37.2	24.1	12.8	1.4 ∨
	2013年（参）	22.3	39.5 ∧	25.6	12.1 ∨	0.5 ▽
D. 国民の生活や国の将来を真剣に考えている政治家が少ない	2009年（衆）	39.0 ∧	37.3	18.4 ∨	4.8	0.6
	2010年（参）	43.3 ∨	37.1 ∧	14.7	3.9	1.0
	2012年（衆）	38.2	40.4	15.8	4.4	1.3 ∨
	2013年（参）	37.3 ▽	42.2 ∧ △	15.5 ∨	4.3	0.6
E. 自分ひとりぐらい投票しなくても，選挙の結果に大きな影響はない	2009年（衆）	10.1	24.0	29.2	35.9 ∨	0.8
	2010年（参）	11.6 ∧	24.6	29.7	33.0	1.0
	2012年（衆）	13.7	25.9	27.7	31.5	1.1 ∨
	2013年（参）	13.5 ∧ △	26.4 ∧	29.2	30.3 ∨ ▽	0.5 ▽
F. 政治家に問題があるのは，選んだ有権者にも責任がある	2009年（衆）	36.5	38.3	16.5	8.3	0.5 ∧
	2010年（参）	37.4	37.9	15.2	8.5	1.0
	2012年（衆）	36.1	39.1	15.3	8.2	1.2 ∨
	2013年（参）	35.4	40.4	15.2	8.6	0.5 ▽

―政党への期待―

第14問　あなたは，政党に，どのようなことを期待しますか。次の中から，あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 地元の発展に貢献してくれる	39.8	37.2	37.1	39.2	
2. 長期的な視野に立った政策がある	48.3	48.3	45.8	46.1	
3. 弱い者の立場に立ってくれる	51.6 >	45.4 >	41.1	41.6 >	▽
4. 自分たちの利益を守ってくれる	20.1	19.4 >	17.0	17.6 >	
5. 改革に意欲がある	32.7 <	35.3	33.1	32.7	▽
6. 自分たちの意見を代弁してくれる	43.4	43.8	42.6	42.9	
7. その他	3.3	2.7	3.6	2.9	
8. 期待することはない	10.8 <	13.3	13.3	14.7 <	
9. 無回答	0.3 <	0.9	1.0	0.8 <	

―投票姿勢―

第15問　あなたは，選挙のとき，投票に行きますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. どんな選挙でも必ず投票に行く	47.1	48.1	46.4 >	42.6 >	▽
2. だいたい投票に行くようにしている	37.4 >	34.8	34.4 <	37.5	△
3. 特に必要があると思ったときだけ投票に行く	11.2	11.2	12.5	12.8	
4. 投票には行かない	3.8 <	5.2	6.2	6.7 <	△
5. 選挙権がない	0.3	0.3 >	0.0	0.1	
6. 無回答	0.1	0.3	0.5	0.3	

―政治話題の頻度―

第16問　あなたは，政治について，まわりの人と話し合うことがどの程度ありますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. よくある	14.7 >	12.2	11.3	10.5 >	
2. ときどきある	53.2	52.4 >	49.4	46.8 >	▽
3. あまりない	24.0	25.7 <	28.9	29.2 <	△
4. ほとんどない	7.9 <	9.5	9.9 <	13.2 <	△
5. 無回答	0.1	0.2	0.4	0.3	

―政治情報への接触頻度―

第17問　政治に関する情報を得るために，あなたは，次のメディアをどの程度利用することがありますか。A～Cそれぞれについて，1つだけ○をつけてください。

		1. よく利用する	2. ときどき利用する	3. あまり利用しない	4. ほとんど利用しない	5. 無回答
	（%）					
A. テレビ	2009年（衆）	63.1	27.1	6.2	3.1	0.6
	2010年（参）	61.6 ∨	28.0	6.4	3.5 ∧	0.5
	2012年（衆）	57.6 ∨	29.4 ∧	7.5	4.6 ∧	0.9
	2013年（参）	52.5 ∨ ▽	32.7 ∧ △	8.3 ∧ △	6.1 ∧ △	0.5
B. 新聞	2009年（衆）	46.3	32.7	12.4	7.3	1.3
	2010年（参）	44.8 ∨	32.8	13.0	8.2 ∧	1.2
	2012年（衆）	39.6	33.0	13.9	11.9	1.6 ∨
	2013年（参）	39.7 ∨ ▽	34.0	12.1	13.4 ∧ △	0.8
C. インターネット	2009年（衆）	14.0	18.1	16.6 ∧	48.0	3.3
	2010年（参）	13.1 ∧	17.2 ∧	19.0 ∨	48.1 ∨	2.6
	2012年（衆）	16.8	19.4 ∨	16.7	44.0 ∧	3.1 ∨
	2013年（参）	15.4 △	16.7	17.7	47.8	2.2 ∨

―内閣への信頼度―

第18問　あなたは，いまの内閣をどの程度信頼していますか。あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. とても信頼している	3.0 >	0.7 <	4.4	3.7	△
2. ある程度信頼している	48.2 >	31.0 <	48.6	47.5	△
3. あまり信頼していない	39.0 <	52.0 >	38.2	38.9	▽
4. まったく信頼していない	9.3 <	16.0 >	8.1	9.6	▽
5. 無回答	0.4	0.4	0.7 >	0.3	

―選挙区の投票政党―

第19問　7月の参議院選挙についてうかがいます。まず，選挙区はどの政党の候補者に投票しましたか。それとも投票には行きませんでしたか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 自民党の候補者	27.7 >	24.2 <	36.8	35.5 <	△
2. 民主党の候補者	45.7 >	32.8 >	13.7 >	8.9 >	▽
3. 日本維新の会の候補者	－	－	7.7 >	5.1	
4. 公明党の候補者	4.1	5.2 >	4.0	4.3	
5. みんなの党の候補者	1.4 <	6.3 >	4.4	3.7 <	▽
6. 共産党の候補者	2.5 <	3.5	4.0 <	5.6 <	△
7. 生活の党の候補者	－	－	－	1.0	
8. 社民党の候補者	1.3	0.9	0.7	0.7 >	
9. みどりの風の候補者	－	－	－	0.8	
10. 新党大地の候補者	－	－	0.3	0.4	
11. 社大党の候補者	－	－	－	0.2	
12. 幸福実現党の候補者	－	－	－	0.1	
13. 緑の党の候補者	－	－	－	0.2	
14. 無所属の候補者	1.5 >	0.8	1.3	1.9	△
15. その他	1.2 <	2.5	2.9 >	1.1	▽
16. 投票には行かなかった	13.4 <	21.7	22.7 <	29.3 <	△

17. 選挙権がなかった	−	0.6	>	0.1	0.0	▽
18. 無回答	1.1	1.5		1.6	1.3	

2009 年（衆）15.「その他」には，「改革クラブ 0.0」「国民新党 0.5」「新党日本 0.3」が含まれる
2009 年（衆）16.「投票には行かなかった・選挙権がなかった」
2010 年（参）15.「その他」には，「たちあがれ日本 0.5」「新党改革 0.6」「国民新党 0.4」が含まれる
2012 年（衆）15.「その他」には，「日本未来の党 1.3」「国民新党 0.4」「新党日本 0.0」が含まれる

―比例代表の投票政党―

第 20 問　それでは，比例代表の投票はどの政党または，どの政党の候補者に投票しましたか。それとも投票には行きませんでしたか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）		2010年（参）		2012年（衆）		2013年（参）	(%)
1. 自民党	24.5	>	22.2	<	29.3		29.0	△
2. 民主党	42.3	>	29.9	>	11.3	>	8.9	▽
3. 日本維新の会	−		−		12.1	>	7.2	
4. 公明党	6.8		6.9		6.9		7.7	
5. みんなの党	2.9	<	9.1	>	7.3	>	5.2	▽
6. 共産党	4.1		3.7		4.0	<	5.6	△
7. 生活の党	−		−		−		1.3	
8. 社民党	2.3	>	1.3		0.9	<	1.7	
9. みどりの風	−		−		−		0.7	
10. 新党大地	−		−		0.4		0.5	
11. 幸福実現党	−		−		0.1		0.2	
12. 緑の党	−		−		−		0.5	
13. その他	2.6	<	4.1	>	3.1	>	0.9	▽
14. 投票には行かなかった	13.6	<	20.7		22.7	<	29.3	△
15. 選挙権がなかった	−		0.6	>	0.1		0.0	▽
16. 無回答	1.0		1.3		1.8		1.3	

2009 年（衆）13.「その他」には，「改革クラブ 0.0」「新党日本 0.5」「国民新党 0.9」が含まれる
2009 年（衆）14.「投票には行かなかった・選挙権がなかった」
2010 年（参）13.「その他」には，「たちあがれ日本 0.6」「国民新党 0.8」「新党改革 0.9」が含まれる
2012 年（衆）13.「その他」には，「日本未来の党 1.9」「国民新党 0.3」「新党改革 0.1」が含まれる

―投票に行かなかった理由―　（全体分母）

第 21 問　【第 19 問で「16」「17」の人，第 20 問で「14」「15」の人に】投票に行かなかった最も大きな理由を次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）		2013年（参）	(%)
1. 投票したい候補者や政党がなかったから	4.6	<	6.0	
2. どの候補者や政党に投票してよいか分からなかったから	2.5	<	3.7	
3. 今回の選挙に興味が持てなかったから	1.4	<	2.6	
4. 自分一人が投票しなくても大勢には影響しないと思ったから	1.6		1.7	
5. 投票に行くのが面倒だったから	1.0		1.0	
6. 投票に行く時間がなかったから	5.4	<	6.9	
7. 政治には関心がないから	2.1		1.8	
8. 政治に失望したから	2.1		2.0	
9. 選挙権がなかったから	0.1		0.0	
10. その他	1.9	<	3.6	
11. 無回答	0.1		0.1	
12. 非該当	77.2	>	70.7	

―投票に行かなかった理由―　（該当者分母）

	2012年（衆）	2013年（参）	(%)
1. 投票したい候補者や政党がなかったから	20.2	20.4	
2. どの候補者や政党に投票してよいか分からなかったから	11.1	12.5	
3. 今回の選挙に興味が持てなかったから	6.4	9.0	
4. 自分一人が投票しなくても大勢には影響しないと思ったから	7.0	5.7	
5. 投票に行くのが面倒だったから	4.2	3.5	
6. 投票に行く時間がなかったから	23.6	23.4	
7. 政治には関心がないから	9.1	6.2	
8. 政治に失望したから	9.3	6.8	
9. 選挙権がなかったから	0.3	0.1	
10. その他	8.1	12.2	
11. 無回答	0.7	0.3	
※「全体分母」のみ検定している	該当者＝614 人	770 人	

―ねじれ解消意識―

第 22 問　参議院選挙の投票にあたって，あなたは，自民党と公明党の与党が参議院で少数となっている「ねじれ」を解消することを意識しましたか。それとも意識しませんでしたか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2013年（参）	(%)
1. 強く意識した	10.6	
2. ある程度意識した	20.5	
3. あまり意識しなかった	20.6	
4. まったく意識しなかった	18.3	
5. 投票には行かなかった	29.3	
6. 選挙権がなかった	0.0	
7. 無回答	0.6	

―投票で重視した点―

第 23 問　あなたが参議院選挙の投票の際，重視したものは何ですか。次の中から，あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

	2010年（参）		2012年（衆）		2013年（参）	(%)
1. 自民党中心の政権の業績 ※	13.8		12.1		14.4	
2. 政権担当能力	18.4	<	31.5	>	23.3	△
3. 候補者や政党の政策	37.2	>	34.0	>	30.3	▽
4. 候補者や政党の印象	19.6		18.8	>	15.3	▽
5. 地元とのつながり	11.1	<	13.6	>	10.2	
6. 家族や知人の意見	8.3		7.7		7.1	
7. 選挙後の議席のバランス	9.3	>	6.3	<	9.4	
8. その他	2.3		2.0		1.4	▽
9. 特にない	3.7		3.4	<	4.7	
10. 投票には行かなかった	20.6		22.7	<	29.3	△
11. 選挙権がなかった	0.6	>	0.1		0.0	▽
12. 無回答	1.4		1.0		0.6	▽

※2010 年（参）と 2012 年（衆）の 1. は「民主党中心の政権の実績」。このため 2013 年（参）は他の調査結果と検定していない。

―投票で重視した課題―

第 24 問　あなたが投票するにあたって，重視した課題はどれでしょうか。次の中から，あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

	2012年（衆）		2013年（参）	(%)
1. 原子力発電などのエネルギー政策	30.0		29.0	
2. 消費税の増税	28.2	>	24.3	
3. 景気・雇用対策	47.6	>	37.5	
4. 震災復興	26.0		25.1	
5. 社会保障，年金問題	43.5	>	39.9	
6. 子育て支援	17.1	>	13.4	
7. 教育改革	10.9	>	6.9	
8. TPP（環太平洋パートナーシップ協定）交渉参加	12.7		11.6	
9. 憲法改正	13.1	<	15.6	
10. 外交・安全保障政策	23.0	>	17.7	
11. その他	1.4		1.1	
12. 特にない	3.9		5.0	
13. 投票には行かなかった	22.7	<	29.3	
14. 選挙権がなかった	0.1		0.0	
15. 無回答	0.6		0.5	

―公約を参考にしたか―

第25問　次に，参議院選挙で政党はそれぞれ公約をかかげていましたが，投票にあたって，その公約をどの程度参考にしましたか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	
1. 大いに参考にした	7.0	8.2	7.2	
2. ある程度参考にした	36.8	<43.0	>38.4	
3. あまり参考にしなかった	25.6	>20.5	20.1	▽
4. まったく参考にしなかった	8.1	> 4.6	4.5	▽
5. 投票には行かなかった	20.6	22.7	<29.3	△
6. 選挙権がなかった	0.6	> 0.1	0.0	▽
7. 無回答	1.3	0.9	0.5	▽

（%）

―選挙情報への接触頻度―

第26問　この参議院選挙で，候補者や政党など選挙についての情報を得るために，あなたは，次のメディアをどの程度利用しましたか。A～Cそれぞれについて，1つだけ○をつけてください。

		1. よく利用した	2. 利用したときどき	3. 利用しなかったあまり	4. 利用しなかったほとんど	5. 無回答
A. テレビ	2013年（参）	33.3	37.5	14.8	13.3	1.0
B. 新聞	2013年（参）	27.6	34.4	17.2	19.5	1.2
C. インターネット	2013年（参）	8.6	12.8	17.0	59.0	2.5

（%）

―ネット選挙による関心の変化―

第27問　今度の参議院選挙から候補者や政党がインターネットを選挙運動に活用することができるようになりました。インターネットの情報に触れたことによって，あなたの選挙への関心はどのようになりましたか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）
1. 関心が高くなった	5.1
2. 変わらない	39.6
3. 関心が低くなった	1.9
4. インターネットの情報には触れなかった	52.9
5. 無回答	0.5

（%）

―ネット選挙参考度―　（該当者分母）

第28問　【第27問で「1」「2」「3」の人に】あなたは，参議院選挙の投票にあたって，インターネットによる選挙運動をどの程度参考にしましたか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）
1. 大いに参考にした	3.3
2. ある程度参考にした	19.2
3. あまり参考にしなかった	38.6
4. まったく参考にしなかった	37.7
5. 無回答	1.1

（%）

該当者＝1,224人

―ネット選挙評価―　（該当者分母）

第29問　【第27問で「1」「2」「3」の人に】インターネットによる選挙運動について，あなたは，どのように感じましたか。A～Fそれぞれについて，1つだけ○をつけてください。

		1. そう思う	2. そう思うどちらかといえば	3. そうは思わないどちらかといえば	4. そうは思わない	5. 無回答
A. 候補者や政党についての情報が得やすくなった	2013年（参）	12.7	42.3	22.0	13.7	9.2
B. 候補者や政党の政策が分かりやすくなった	2013年（参）	6.9	39.8	29.0	15.1	9.2
C. 投票する候補者や政党が決めやすくなった	2013年（参）	5.5	26.3	38.6	20.0	9.6
D. 演説日程などの告知ばかり目立った	2013年（参）	9.5	33.1	34.0	13.5	10.0
E. 誹謗中傷など品位に欠ける内容が多かった	2013年（参）	5.1	22.5	45.9	16.4	10.1
F. 政策についての議論が低調だった	2013年（参）	9.8	37.3	31.5	11.7	9.7

（%）

該当者＝1,224人

―憲法改正の是非―

第30問　話はかわりますが，あなたは，今の憲法を改正する必要があると思いますか。それとも改正する必要はないと思いますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（参）
1. 改正する必要がある	64.7	>55.7
2. 改正する必要はない	32.5	<42.9
3. 無回答	2.8	> 1.3

（%）

―憲法改正の肯定理由―　（該当者分母）

第31問　【第30問で「1」の人に】「改正する必要がある」のは，どういう理由からでしょうか。あなたのお考えに最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）
1. アメリカに押しつけられた憲法だから	4.6
2. 国際社会での役割を果たすために必要だから	11.1
3. 時代が変わって対応できない問題が出てきたから	82.6
4. その他	1.4
5. 無回答	0.3

（%）

該当者＝1,464人

―憲法改正の否定理由―　（該当者分母）

第32問　【第30問で「2」の人に】「改正する必要はない」のは，どういう理由からでしょうか。あなたのお考えに最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）
1. 今の憲法がいい憲法だと思うから	8.5
2. 多少問題はあるが，改正するほどのことはないから	40.4
3. 戦争の放棄を定めた憲法9条を守りたいから	47.7
4. その他	2.0
5. 無回答	1.3

（%）

該当者＝1,128人

―96 条過半数に改正の是非―

第 33 問　憲法 96 条では，憲法改正の手続きを始めるためにはまず，衆議院と参議院のそれぞれですべての議員の「3 分の 2 以上の賛成」が必要だと定めています。あなたはこれを，「過半数の賛成」に改正する必要があると思いますか。それとも改正する必要はないと思いますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2013年（%）（参）
1. 改正する必要がある	28.0
2. 改正する必要はない	70.5
3. 無回答	1.6

―9 条改正の是非―

第 34 問　あなたは，いわゆる「戦争の放棄」を定めた憲法第 9 条を改正する必要があると思いますか。それとも改正する必要はないと思いますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（%）（参）
1. 改正する必要がある	37.4	>27.1
2. 改正する必要はない	59.9	<71.2
3. 無回答	2.7	> 1.7

―9 条改正の肯定理由―　（該当者分母）

第 35 問　【第 34 問で「1」の人に】「改正する必要がある」のは，どういう理由からでしょうか。あなたのお考えに最もあてはまるものに 1 つだけ○をつけてください。

	2013年（%）（参）
1. 自衛力を持てることを憲法にはっきりと書くべきだから	70.8
2. 国連を中心とする軍事活動にも参加できるようにすべきだから	15.0
3. 海外で武力行使ができるようにすべきだから	5.3
4. 自衛隊も含めた軍事力を放棄することを明確にすべきだから	6.0
5. その他	2.5
6. 無回答	0.3

該当者＝ 713 人

―9 条改正の否定理由―　（該当者分母）

第 36 問　【第 34 問で「2」の人に】「改正する必要はない」のは，どういう理由からでしょうか。あなたのお考えに最もあてはまるものに 1 つだけ○をつけてください。

	2013年（%）（参）
1. 海外での武力行使の歯止めがなくなるから	17.6
2. アジア各国などとの国際関係を損なうから	5.5
3. 平和憲法としての最も大事な条文だから	63.3
4. 改正しなくても，憲法解釈の変更で対応できるから	10.6
5. その他	0.9
6. 無回答	2.2

該当者＝ 1,870 人

―尖閣問題への対応―

第 37 問　尖閣諸島（沖縄県）をめぐって中国との関係が悪化していますが，日本政府は中国に対しどのような対応をすべきだと思いますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（%）（参）
1. 警備を強化し，断固とした姿勢で臨む	37.9	38.5
2. 対話を重視して問題解決に取り組む	53.5	52.3
3. 中国との間で，当面この問題には触れないでおく	5.0	6.1
4. その他	1.9	2.0
5. 無回答	1.7	1.1

―日本の安全を守る方策―

第 38 問　あなたは，これから日本の安全を守っていくうえで，どのような方法が一番よいと思いますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（%）（参）
1. ある程度の防衛力を持って，アメリカとの協力関係を続けていく	49.4	>43.9
2. 国連に協力して国際的な安全保障体制を築いていく	39.7	<43.6
3. 日本独自の防衛力だけで，外国からの侵略に備えていく	4.4	4.7
4. いっさいの防衛力を持たないで，中立を保っていく	4.2	4.5
5. その他	0.8	< 1.6
6. 無回答	1.6	1.8

―原発をどうすべきか―

第 39 問　話は変わりますが，あなたは，原子力発電所を今後どうすべきだと思いますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（%）（参）
1. 増やすべきだ	2.2	1.6
2. 現状を維持すべきだ	28.8	27.2
3. 減らすべきだ	43.4	41.1
4. すべて廃止すべきだ	24.6	<29.0
5. 無回答	1.0	1.1

―消費税増税の賛否―

第 40 問　政府は，来年の 4 月から消費税を 8%に上げるかどうかについて，この秋に判断することにしています。消費税を上げることについてどのように考えますか。次の中から 1 つだけ○をつけてください

	2012年（衆）	2013年（%）（参）
1. 賛成	5.5	5.9
2. どちらかといえば賛成	32.2	32.3
3. どちらかといえば反対	39.1	39.2
4. 反対	22.7	21.9
5. 無回答	0.5	0.6

―経済政策の評価―

第 41 問　安倍総理大臣の経済政策を評価しますか。それとも評価しませんか。次の中から 1 つだけ○をつけてください。

	2013年（%）（参）
1. 大いに評価する	5.2
2. ある程度評価する	55.7
3. あまり評価しない	29.7
4. まったく評価しない	8.5
5. 無回答	0.9

―政党個別評価―

第42問　自民党，民主党それぞれの政党について，あなたがあてはまると思うものをいくつでも選んでください。

A.まず，「自民党」についてはいかがですか。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 人材が豊かである	16.4	<18.6	<40.9	>33.2	<△
2. 党首にリーダーシップがある	4.0	5.0	<30.8	33.1	<△
3. 長期的な視野に立った政策を掲げている	9.1	<11.2	<16.7	16.2	<△
4. 国民の立場に立った政策を掲げている	4.9	< 6.4	< 9.6	> 7.9	<△
5. 政策を公約どおりに実現できる	2.3	< 3.4	< 5.8	5.7	<△
6. 政治倫理の面で信頼できる	4.6	< 6.1	< 8.0	7.7	<△
7. 危機に適切に対応できる	7.6	<10.0	<17.4	>12.9	<△
8. 外国と信頼関係を築いていける	17.3	<20.3	<34.9	>24.5	<△
9. 既得権益にとらわれない政治判断ができる	1.5	1.8	2.3	2.4	<
10. 政権を安心して任せられる	4.6	5.1	<11.4	12.1	<△
11. この中にあてはまるものはない	60.3	>53.4	>27.6	<32.0	>▽
12. 無回答	1.7	2.4	2.1	1.7	

B.では，「民主党」についてはいかがですか。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 人材が豊かである	18.1	<20.3 >	3.9	3.8	>▽
2. 党首にリーダーシップがある	8.6 >	4.7 >	2.4 >	1.2	>▽
3. 長期的な視野に立った政策を掲げている	13.1	>10.3 >	4.0 >	2.4	>▽
4. 国民の立場に立った政策を掲げている	42.4	>28.3	>13.8	>11.0	>▽
5. 政策を公約どおりに実現できる	4.4 >	2.1 >	0.9	0.7	>▽
6. 政治倫理の面で信頼できる	9.4	9.2 >	5.3 >	4.1	>▽
7. 危機に適切に対応できる	2.9 >	2.0 >	1.1	0.8	>▽
8. 外国と信頼関係を築いていける	5.0 >	3.6 >	1.5	1.4	>▽
9. 既得権益にとらわれない政治判断ができる	24.5	>15.5 >	8.3 >	4.8	>▽
10. 政権を安心して任せられる	3.2 >	2.2 >	1.0	1.0	>▽
11. この中にあてはまるものはない	34.5	<47.4	<69.4	<74.4	<△
12. 無回答	1.0 <	1.9 <	3.4	3.5	<△

―政党支持強度―

第43問　あなたは，次の政党について，どのようにお考えになりますか。A～Hのそれぞれについて，1つだけ○をつけてください。

		1. 支持する強く	2. 支持する一応	3. いえないどちらとも	4. 支持しないあまり	5. 支持しない絶対に	6. 無回答
	（%）						
A. 自民党	2009年（衆）	4.9	25.1	33.8	23.9	10.9	1.4
				∧	∨	∨	
	2010年（参）	5.5	27.3	37.2	19.1	8.9	2.0
		∧	∧	∨	∨	∨	
	2012年（衆）	12.2	47.0	26.0	9.1	4.0	1.8
					∧		
	2013年（参）	11.5	44.7	25.1	12.4	5.1	1.2
		∧	∧	∨	∨	∨	
		△	△	▽	▽	▽	▽
B. 民主党	2009年（衆）	10.5	44.5	25.7	12.6	5.5	1.2
		∨	∨	∧	∧	∧	
	2010年（参）	6.7	36.6	30.6	16.5	7.9	1.7
		∨	∨	∧	∧	∧	∧
	2012年（衆）	1.1	13.1	38.1	28.1	16.8	2.8
				∨		∧	
	2013年（参）	0.9	11.5	35.2	30.1	20.3	2.0
		∨	∨	∧	∧	∧	∧
		▽	▽	△	△	△	
C. 日本維新の会	2012年（衆）	5.0	24.1	39.8	18.2	10.0	2.9
		∨	∨		∧	∧	
	2013年（参）	2.9	14.3	41.2	25.4	13.9	2.3
D. 公明党	2009年（衆）	3.2	7.8	30.5	26.0	30.4	2.2
	2010年（参）	2.9	8.3	30.9	26.8	28.7	2.5
			∧	∧	∨	∨	
	2012年（衆）	3.3	11.5	36.7	24.3	21.4	2.8
							∨
	2013年（参）	2.9	11.6	37.7	25.0	20.9	1.9
			∧	∧		∨	
			△	△		▽	
E. みんなの党	2009年（衆）	1.7	8.4	41.5	28.3	18.1	2.1
		∧	∧		∨	∨	
	2010年（参）	5.0	20.6	40.1	21.2	10.2	2.9
		∨	∨	∧			
	2012年（衆）	3.0	17.4	44.5	22.3	9.7	3.1
		∨	∨		∧	∧	∨
	2013年（参）	0.9	11.0	44.3	28.4	13.3	2.1
		∨	∧	∧		∨	
		▽	▽	△	△	△	
F. 共産党	2009年（衆）	1.5	8.0	31.3	26.1	31.1	2.0
			∨				
	2010年（参）	1.7	6.4	30.3	26.8	32.1	2.7
	2012年（衆）	1.6	5.6	32.2	27.8	29.8	3.0
			∧				∨
	2013年（参）	1.5	8.1	34.7	26.3	27.4	2.1
				∧		∨	
			△	△		▽	
G. 生活の党	2012年（衆）	0.5	2.7	38.5	31.0	23.7	3.6
			∧	∨		∧	∨
	2013年（参）	0.3	3.7	35.3	31.8	26.9	2.1
H. 社民党	2009年（衆）	0.8	8.5	37.2	28.7	22.6	2.1
			∨	∨		∧	
	2010年（参）	0.6	6.7	34.1	30.9	24.9	2.8
			∨				
	2012年（衆）	0.5	4.0	35.9	30.2	26.3	3.2
							∨
	2013年（参）	0.5	4.6	35.1	30.6	27.1	2.1
			∨			∧	
			▽				

―ふだんの支持政党―

第44問　ふだん，あなたは何党を支持していますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 自民党	26.1	25.9	<37.9	38.9	<△
2. 民主党	28.9	27.9	> 8.3	8.1	>▽
3. 日本維新の会	－	－	6.5	> 5.1	
4. 公明党	4.7	5.0	4.4	4.6	
5. みんなの党	1.3	< 4.3	4.1	> 2.6	<▽
6. 共産党	2.1	2.7	3.2	3.3	<
7. 生活の党	－	－	0.6	0.9	
8. 社民党	1.7	> 0.7	0.9	1.2	
9. その他の政治団体	0.5	< 1.4	> 0.3	0.3	▽
10. 特に支持している政党はない	34.0	>31.3	33.2	34.3	△
11. 無回答	0.6	0.9	0.7	0.6	

2009年（衆）9.「その他」には，「国民新党0.2」「改革クラブ0.0」「新党日本0.1」が含まれる
2010年（参）9.「その他」には，「たちあがれ日本0.4」「国民新党0.2」「新党改革0.4」が含まれる
2012年（衆）9.「その他」には，「みどりの風0.0」「新党改革0.1」が含まれる

―いまの支持政党―

第45問　それでは，いま，あなたは何党を支持していますか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 自民党	18.8	20.3	<41.1	41.1	<△
2. 民主党	40.6	>31.1	> 5.7	5.5	>▽
3. 日本維新の会	－	－	8.1	> 4.8	
4. 公明党	4.4	4.8	4.1	4.1	
5. みんなの党	1.6	< 6.4	> 3.9	> 2.4	<▽
6. 共産党	1.9	2.4	2.8	3.6	<△
7. 生活の党	－	－	0.6	0.7	
8. 社民党	1.1	> 0.6	0.7	0.8	
9. その他の政治団体	0.5	< 1.7	> 0.3	0.4	▽
10. 特に支持している政党はない	30.4	31.9	31.7	<36.1	<△
11. 無回答	0.7	0.9	0.9	0.5	

2009年（衆）9.「その他」には，「国民新党0.2」「改革クラブ0.0」「新党日本0.0」が含まれる
2010年（参）9.「その他」には，「たちあがれ日本0.6」「国民新党0.4」「新党改革0.6」が含まれる
2012年（衆）9.「その他」には，「みどりの風0.0」「新党改革0.1」が含まれる

―支持政党がない理由―　（全体分母）

第46問　【第45問で「10」の人に】いま，支持する政党がないのは，どういう理由からでしょうか。あなたのお考えに最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 政治には関心がないから	2.5	2.4	3.0	2.8	
2. 政治のことはむずかしいから	2.7	2.6	2.7	2.5	
3. 信頼できる政党がないから	7.7	8.4	9.0	<11.0	<△
4. 政党の特徴がはっきりしないから	2.4	2.9	2.8	3.2	
5. 自分の気持ちに合った政党がないから	2.6	1.9	2.4	< 3.7	<△
6. 特定の政党を支持しても，政治が変わりそうもないから	10.6	12.0	11.0	11.8	
7. その他	1.4	0.9	> 0.4	< 0.9	
8. 無回答	0.6	0.8	0.4	0.3	▽
9. 非該当	69.6	68.1	68.3	>63.9	>▽

―支持政党がない理由―　（該当者分母）

	2009年（衆）	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 政治には関心がないから	8.2	7.5	9.4	7.7	
2. 政治のことはむずかしいから	8.8	8.1	8.4	6.8	
3. 信頼できる政党がないから	25.2	26.3	28.3	30.3	
4. 政党の特徴がはっきりしないから	7.8	9.0	8.9	9.0	
5. 自分の気持ちに合った政党がないから	8.4	6.0	7.7	10.1	
6. 特定の政党を支持しても，政治が変わりそうもないから	35.0	37.8	34.7	32.6	
7. その他	4.6	2.7	1.3	2.5	
8. 無回答	2.0	2.6	1.3	0.9	
※「全体分母」のみ検定している　該当者＝	808人	852人	855人	949人	

―衆院選で投票した政党―

第47問　去年12月に衆議院選挙がありましたが，比例代表選挙であなたは，どの政党に投票しましたか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）（%）
1. 自民党	37.5
2. 民主党	13.0
3. 日本維新の会	8.1
4. 公明党	6.3
5. みんなの党	4.7
6. 日本未来の党	0.6
7. 共産党	4.8
8. 社民党	1.5
9. 新党大地	0.3
10. 国民新党	0.2
11. 新党改革	0.0
12. 幸福実現党	0.2
13. その他	0.9
14. 投票には行かなかった	19.8
15. 選挙権がなかった	0.3
16. 無回答	1.8

―衆参与党多数評価―

第48問　今度の参議院選挙の結果，自民党と公明党の与党が衆議院と参議院ともに過半数となりました。あなたはこの状態は望ましいと思いますか。それとも望ましくないと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	2013年（参）（%）
1. 望ましい	17.8
2. どちらかといえば望ましい	37.5
3. どちらかといえば望ましくない	31.6
4. 望ましくない	11.3
5. 無回答	1.8

―政界再編の期待―

第49問　これまで，政党が分裂したり，新しい政党が結成されるなど政界が再編されてきましたが，あなたは，今後も政界が再編されることを望みますか。それとも，望みませんか。次の中から1つだけ○をつけてください。

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 望む	24.1	>17.2	<22.6	
2. 望まない	34.5	<42.1	>32.7	
3. どちらともいえない	40.3	39.7	<43.9	△
4. 無回答	1.0	1.0	0.8	

―日本の政党のあり方―

第50問　日本の政党のあり方として，どのような形がよいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 1つの大政党	9.1	7.7	7.9	
2. 政策が近い2大政党	33.0	32.7	>29.0	▽
3. 政策に差がある2大政党	27.9	<32.3	33.7	△
4. 政策が近い多数の政党	14.4	>11.2	11.6	▽
5. 政策に差がある多数の政党	9.5	10.2	11.8	△
6. その他	1.7	1.9	2.5	△

7. 無回答 …… 4.4　4.0　3.5

―自己の政治的立場―

第 51 問　あなたの政治的立場はどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに 1 つだけ○をつけてください。

	2010年（参）	2012年（衆）	2013年（参）	（%）
1. 保守的	12.7	14.3	14.4	
2. どちらかといえば保守的	47.0	<51.1	53.2	△
3. どちらかといえば革新的	32.3	>28.8	>26.3	▽
4. 革新的	5.5	> 3.3	3.5	▽
5. 無回答	2.5	2.5	2.6	

第 52 問　性別（サンプル構成比参照）

第 53 問　生年（省略）

第 54 問　職業（サンプル構成比参照）

第 55 問　雇用形態（省略）

第 56 問　学歴（サンプル構成比参照）

―幸福感―

第 57 問　あなたは今，幸せですか。それともそうは思いませんか。あてはまるものに 1 つだけ○をつけてください。

	2012年（衆）	2013年（参）（%）
1. とても幸せである	12.8	11.5
2. まあ幸せである	70.8	<73.6
3. あまり幸せではない	13.7	12.3
4. まったく幸せではない	2.1	1.8
5. 無回答	0.6	0.8

―固定電話の有無―

第 58 問　あなたのお宅に固定電話がありますか。次の中から，1 つだけ○をつけてください。携帯電話しかない場合や，固定電話でもインターネットを使った IP 電話で 050 から始まる電話番号をご使用の方は，「2.固定電話がない」とお答えください。

	2013年（参）（%）
1. 固定電話がある	88.7
2. 固定電話がない	10.7
3. 無回答	0.6

サンプル構成比

全体	性		年層					
	男性	女性	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上
2,627 人	1,265	1,362	241	356	478	448	557	547
100.0%	48.2	51.8	9.2	13.6	18.2	17.1	21.2	20.8

全体	男の年層						女の年層					
	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上
2,627 人	108	180	239	208	270	260	133	176	239	240	287	287
100.0%	4.1	6.9	9.1	7.9	10.3	9.9	5.1	6.7	9.1	9.1	10.9	10.9

全体	都市規模				
	特別区と人口 100 万以上の市	人口 30 万以上の市	人口 10 万以上の市	人口 5 万以上の市町村	人口 5 万未満の市町村
2,627 人	513	603	631	415	465
100.0%	19.5	23.0	24.0	15.8	17.7

全体	職業												
	農林漁業者	自営業者	経営者	管理職	販売・サービス職	技能・作業職	事務・技術職	専門職，自由業	主婦	学生	無職	その他	無回答
2,627 人	70	221	23	78	314	311	465	66	566	34	431	31	17
100.0%	2.7	8.4	0.9	3.0	12.0	11.8	17.7	2.5	21.5	1.3	16.4	1.2	0.6

全体	学歴						
	中学校（旧制小学校，高等小学校）	高等学校（旧制中学校，女学校）	高等専門学校・短期大学（旧制高等学校）	大学・大学院	在学中	その他	無回答
2,627 人	392	1,063	507	583	36	24	22
100.0%	14.9	40.5	19.3	22.2	1.4	0.9	0.8